

統計から見る長野県観光の現況

平成27年9月

長野県観光部山岳高原観光課

しあわせ  信州

目次

➤ 目次	1
➤ 各種調査の説明	2

全国の観光動向

➤ 宿泊旅行の現状	3
➤ 観光消費額の現状	4
➤ 訪日外国人旅行者数	5

長野県観光の姿

➤ 観光旅行者の推移	6
➤ スキー場利用者の推移	7
➤ 外国人宿泊者数の推移	8

全国における長野県のポジション

➤ 観光旅行者数(宿泊者数)	9
➤ 観光消費額	10
➤ 宿泊施設数	11
➤ 客室稼働率	12

長野県観光客のプロフィール

➤ 観光客の属性(性別)	13
➤ 観光客の属性(年齢構成)	14
➤ 観光客の属性(居住地①)	15
➤ 観光客の属性(居住地②)	16
➤ 交通手段	17
➤ 同行者の状況	18
➤ リピーターの状況	19

長野県観光の持ちあじ

➤ 旅行者の満足度	20
➤ 長野県の魅力	21
➤ 長野県への旅行の目的	22
➤ 長野県への旅行を選んだ理由	23
➤ 旅行者の来訪意向	24
➤ 旅行タイプと旅行先①	25
➤ 旅行タイプと旅行先②	26
➤ 長野県への旅行における潜在需要	27
➤ 旅行者の周遊エリア(観光地点別①～③)	28
➤ 県外旅行者の周遊エリア	31
➤ 地域ブランドランキング	32



各種調査の説明

観光地利用者統計調査(長野県)

- 調査方法 市町村で観光施設等へ調査を実施し、県が集計。
- 調査対象 県内283か所の観光地(平成26年)
- 数値の定義 延利用者数・・・日帰り客数と宿泊客数の延数の合計

スキー・スケート場利用者統計調査(長野県)

- 調査方法 市町村でスキー場へ調査を実施し、県が集計。
- 調査対象 県内のスキー場
- 数値の定義 延利用者数

外国人宿泊者数調査(長野県)

- 調査方法 政府登録ホテル・旅館及び市町村が対象とした施設へ照会、県が集計。
- 調査対象 933施設(平成26年)
- 数値の定義 延宿泊者数

観光地点パラメータ調査(長野県)

- 調査対象 県内観光地を訪れている旅行者
- 調査方法 観光地点(12か所)で四半期ごとに対面式アンケートを実施
- 調査サンプル数(平成26年度)
回答者数・・・3,091
サンプル数・・・15,782※サンプル数は同行者を含めた総数
- 調査地点
・プリンスショッピングプラザ(軽井沢町) ・懐古園(小諸市)
・上田城跡(上田市) ・諏訪大社上社(諏訪市) ・羽広温泉(伊那市)
・松本城(松本市) ・堀金物産店道の駅(安曇野市)
・道の駅木曾ならかわ(塩尻市) ・道の駅小谷(小谷村)
・斑尾高原(飯山市) ・善光寺(長野市) ・志賀高原(山ノ内町)

じゃらん宿泊旅行調査2014((株)じゃらんリサーチセンター)

- 調査対象 国内在住の20～79歳の男女
- 調査方法 インターネット調査
- 調査時期 2014年4月
- 調査内容 2013年4月～2014年3月において実施した宿泊を伴う国内旅行(出張・帰省・修学旅行等を除く)について
- 調査サンプル数
【1次調査】80,000人回収
【2次調査】・宿泊旅行実施者 15,413サンプル
・旅行件数 30,923件(うち、長野県への旅行件数1,242件)

※じゃらん宿泊旅行調査については、一部2012のデータを使用する図表がある。

じゃらんご当地調査2010((株)じゃらんリサーチセンター)

- 調査対象 国内在住の20～69歳の男女
- 調査方法 インターネット調査 調査時期 2009年12月
- 調査サンプル数 該当都道府県について回答するサンプル数はおよそ100名ずつ
①地元定着者・・・99名 ②上京者・・・99名 ③首都圏定着者・・・100名

旅行動向2011((公財)日本交通公社)

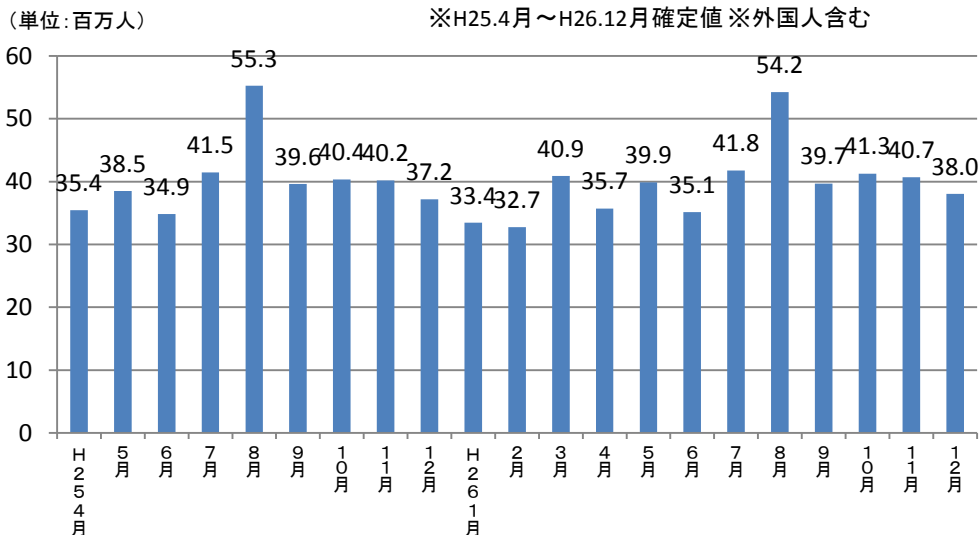
- 調査対象 全国18歳以上の個人
- 調査方法 インターネット調査
- 調査時期 トリップ調査2010年12月 オムニバス調査2010年12月
- 調査内容 旅行マーケットはトリップ調査データを使用し、2006年から2010年までの5年分のデータを旅行先別に分析
行ってみたい旅行はオムニバス調査による参加希望率の集計
- 調査サンプル数 トリップ調査8,000
オムニバス調査3,000

JTB宿泊統計年報2011((株)ツーリズム・マーケティング研究所)

- JTBアンケートの概要
・宿泊施設の品質・サービス向上を目指して利用宿泊施設の満足度をはかる「宿泊アンケート」を実施。
・2010年度のアンケート回収数は約50万6千枚。

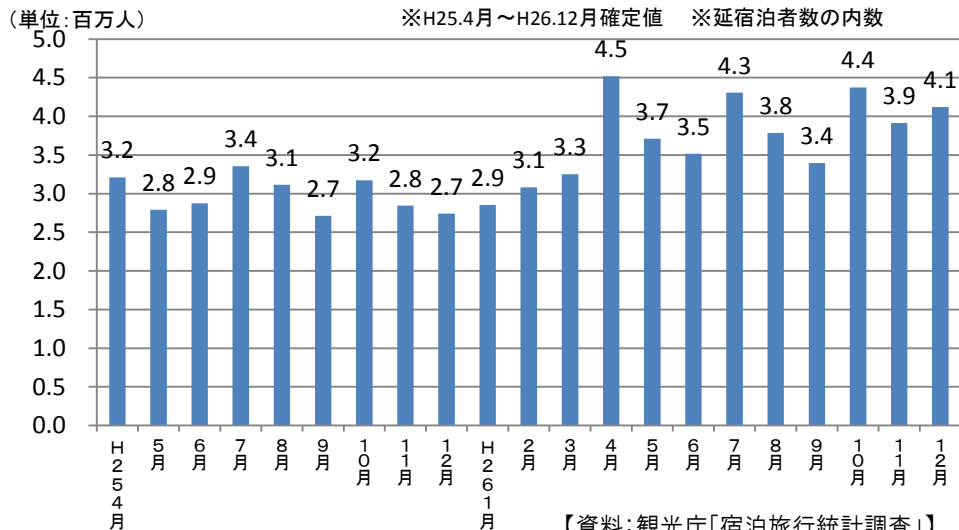
宿泊旅行の現状

■ 月別延べ宿泊者数の推移(平成25年4月～平成26年12月)



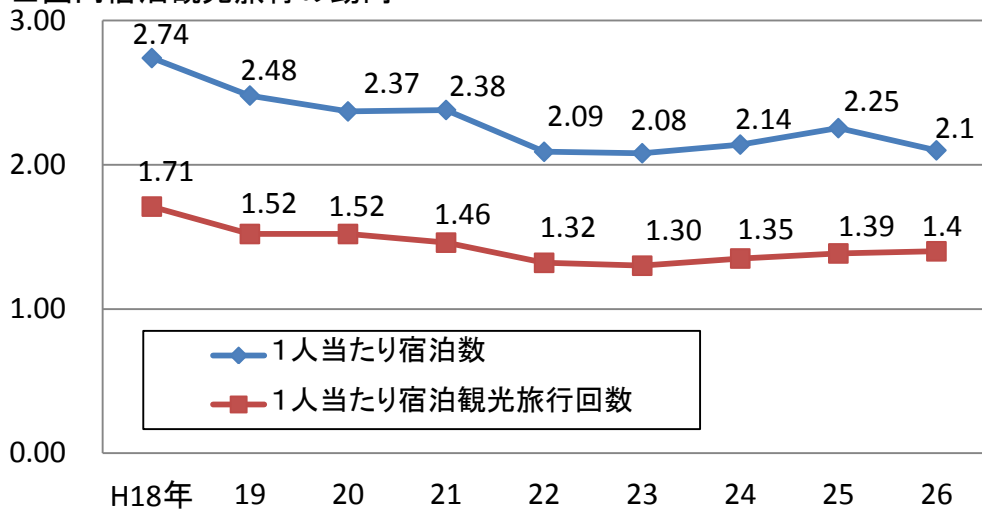
【資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」】

■ 月別外国人延べ宿泊者数の推移(平成25年4月～平成26年12月)



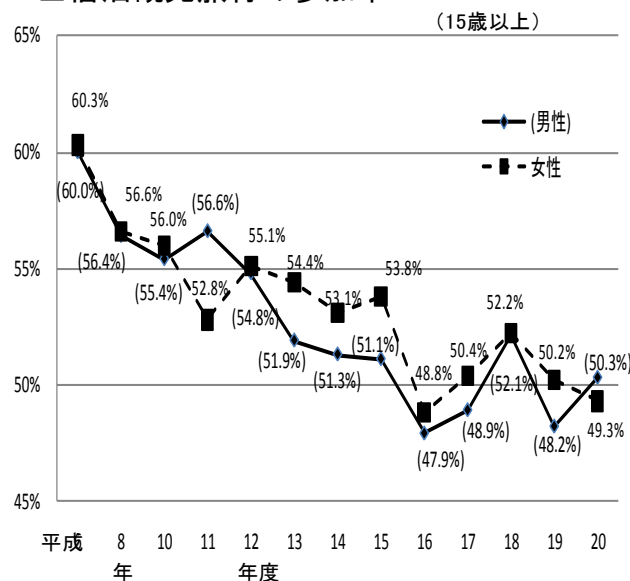
【資料:観光庁「宿泊旅行統計調査」】

■ 国内宿泊観光旅行の動向



【資料:観光庁「旅行・観光消費動向調査」】

■ 宿泊観光旅行の参加率



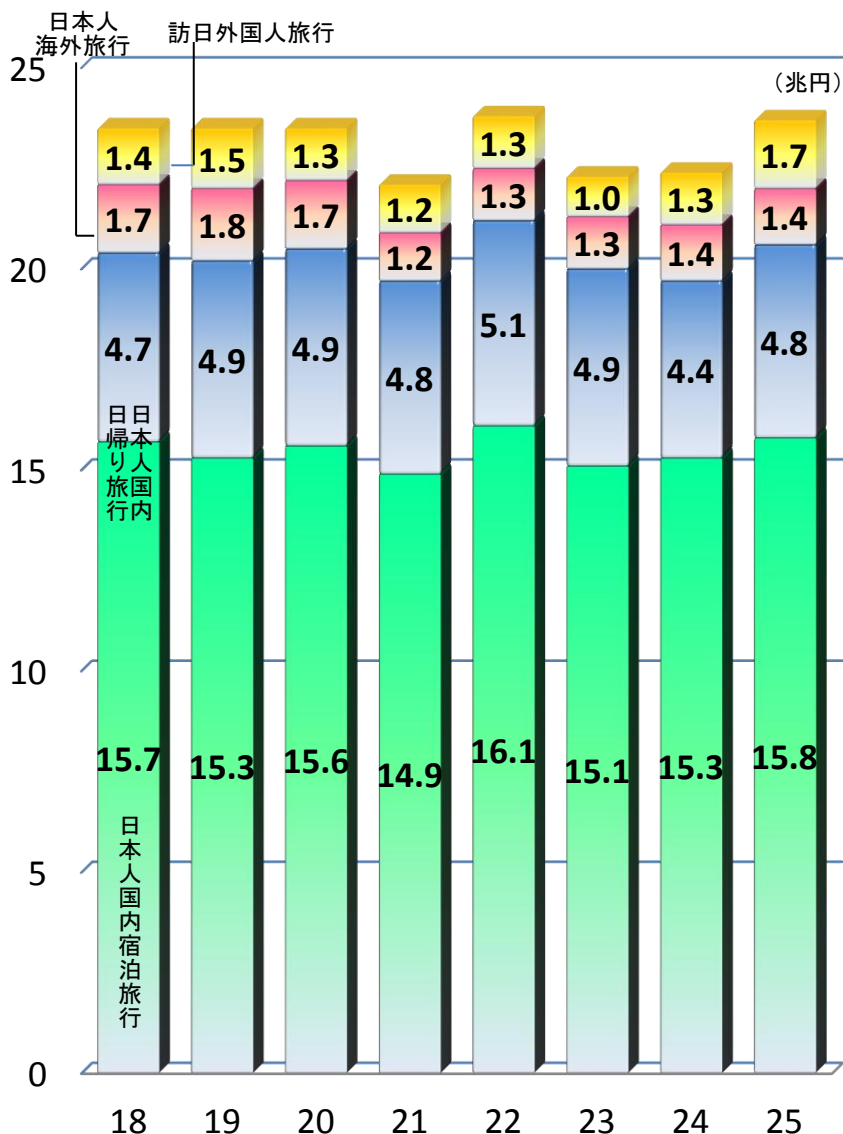
【資料:日本観光協会「観光の実態と志向(第28回)」'10(平22)年2月】

■ 宿泊観光を実施しなかった理由

	H4	H15	H20
時間的余裕がない	38.0	44.4	38.6
経済的余裕がない	18.7	26.7	28.9
なんとなくしないまま過ぎた	19.8	20.8	18.9
家を離れられない事情があった	18.3	17.0	18.3
健康上の理由で	12.3	13.9	14.6
出張等で観光もしたから	7.1	5.6	6.9
他にやりたいことがある	4.4	5.4	5.2
計画や準備が面倒	3.6	3.8	3.9
一緒に行く人がいない	2.7	3.8	3.8
行きたいと思うところがない	3.3	4.9	4.6
旅行は嫌だから	3.9	3.2	2.6
海外旅行の方をしたい	0.6	2.5	2.2
その他	7.0	7.8	9.0

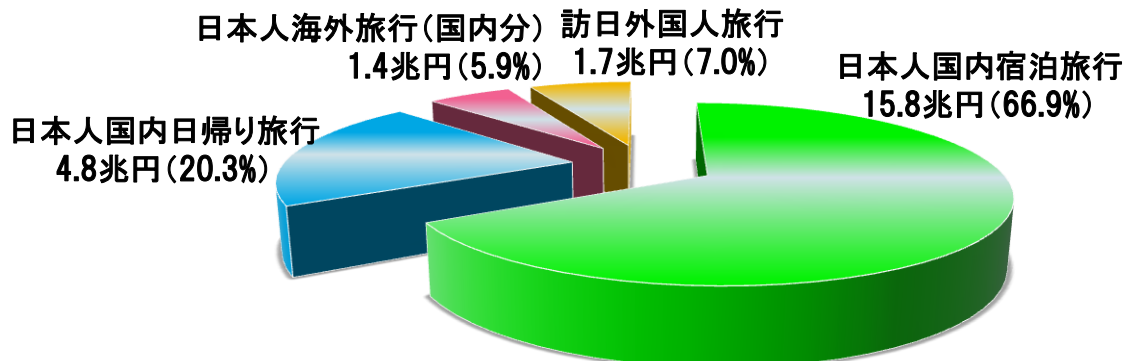
観光消費額の現状

■国内旅行消費額の推移(平成15年～平成25年)



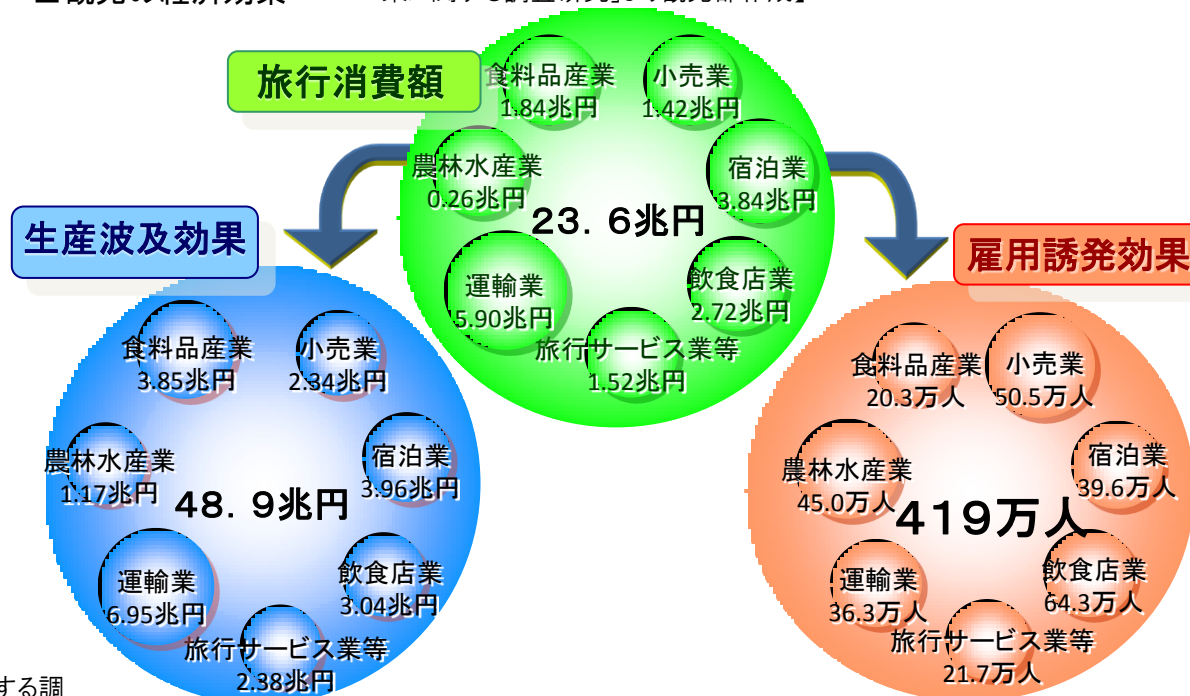
■国内旅行消費額の内訳

平成25年度 23.6兆円



■観光の経済効果

【資料:観光庁「旅行・観光消費動向調査」、「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」より観光部作成】

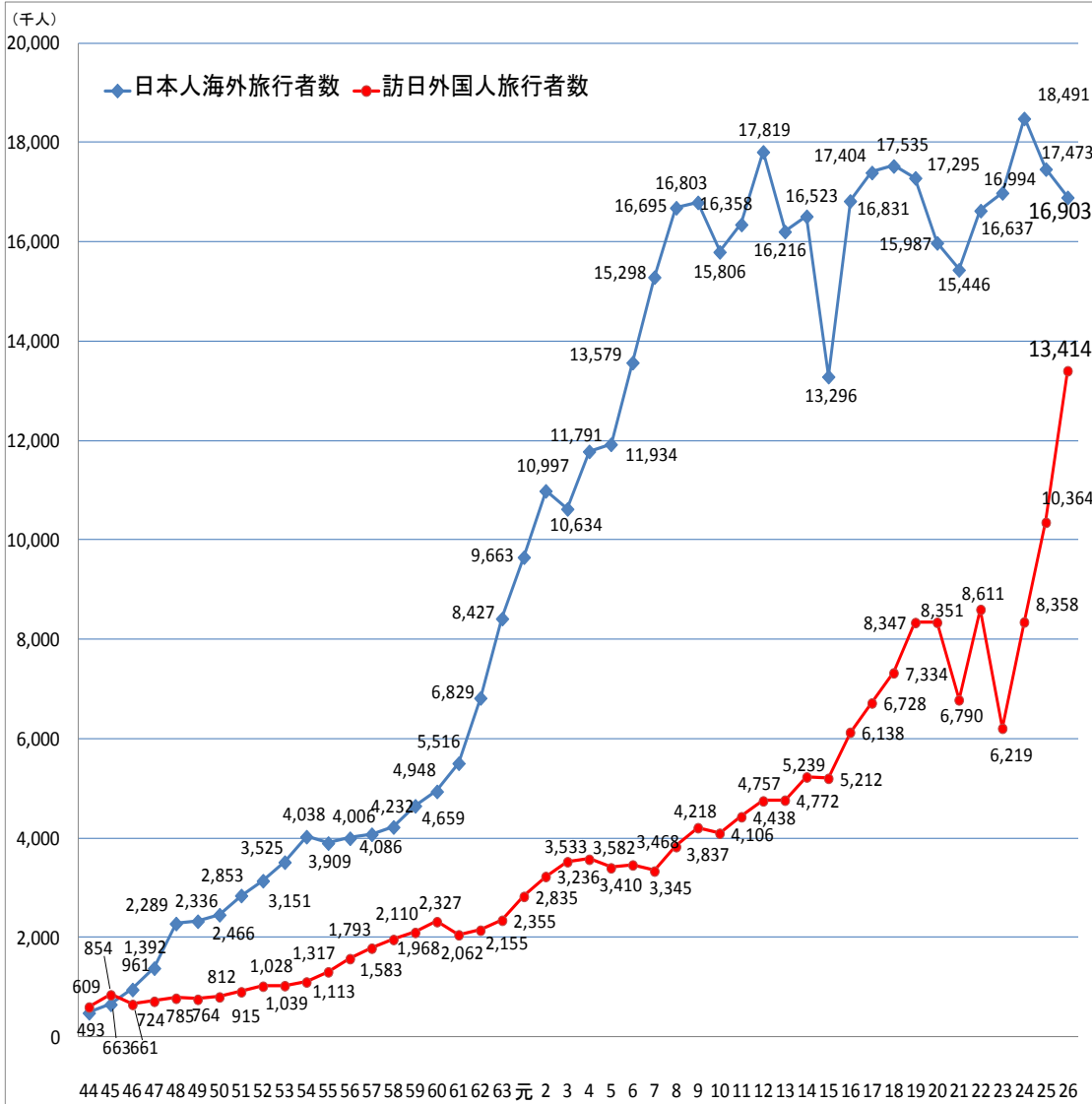


【資料:観光庁「旅行・観光消費動向調査」、「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究(2013年版)」より観光部作成】

【資料:観光庁「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」による】

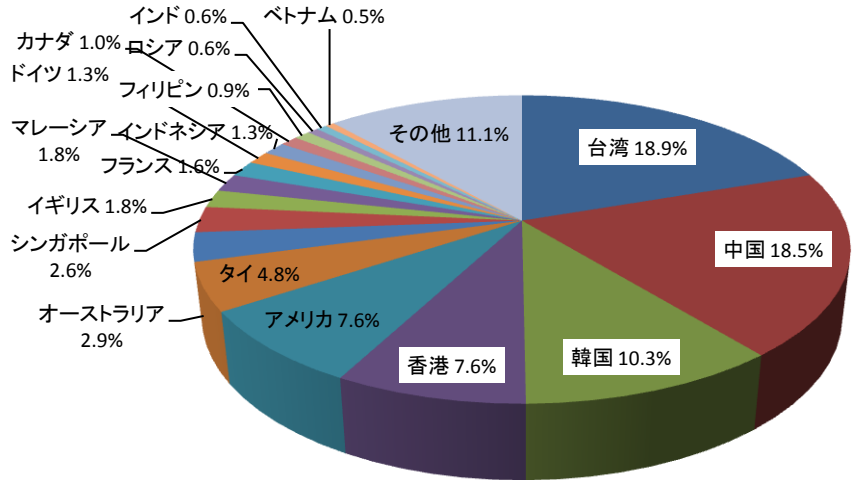
訪日外国人旅行者数

■日本人海外旅行者数及び訪日外国人旅行者数



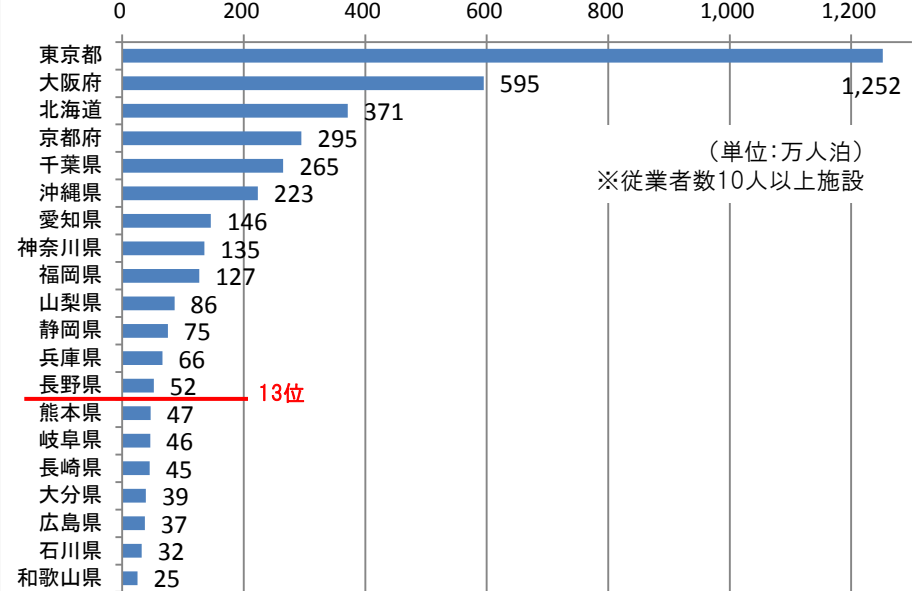
【資料: 法務省「出入国管理統計」及び(独)国際観光推進機構(JNTO)「訪日外客数の動向」】

国籍別外国人延べ宿泊者数(平成26年1月～12月)



【資料: 観光庁「宿泊旅行統計調査」】

都道府県別外国人延べ宿泊者数(平成26年1月～12月)

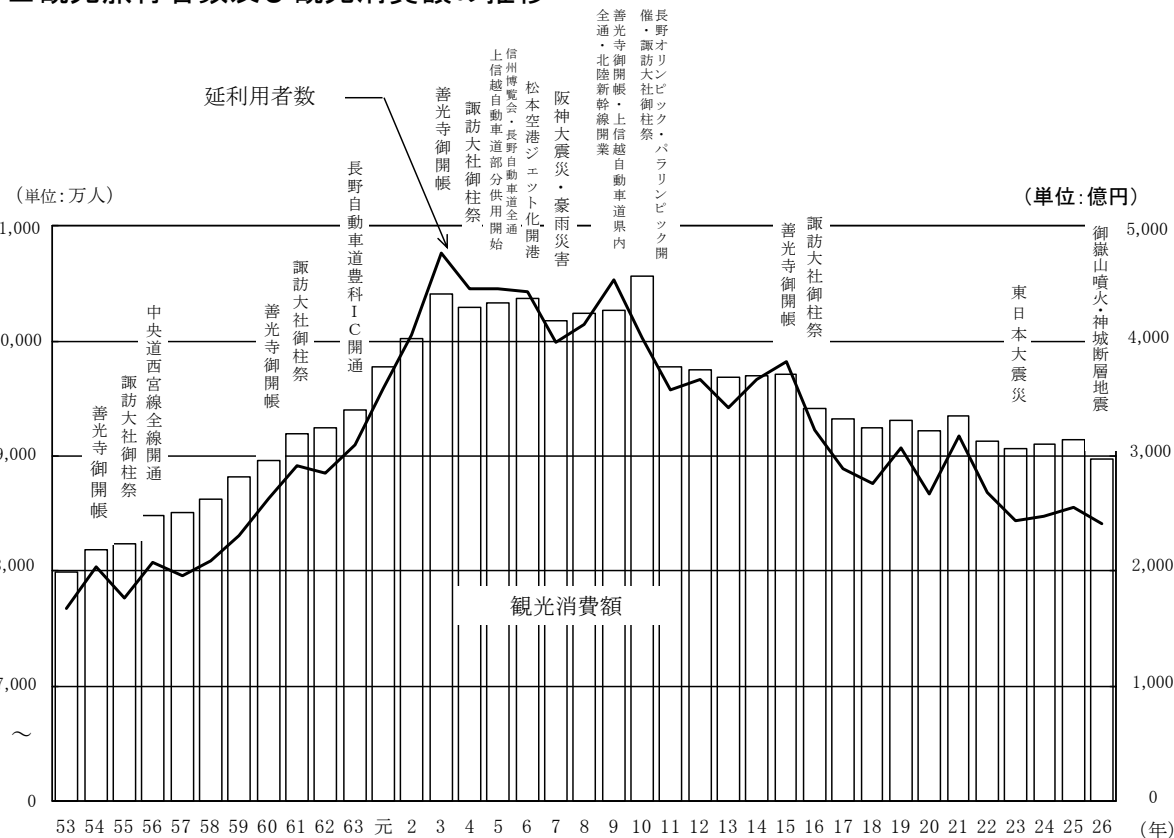


資料: 【観光庁「宿泊旅行統計調査」】

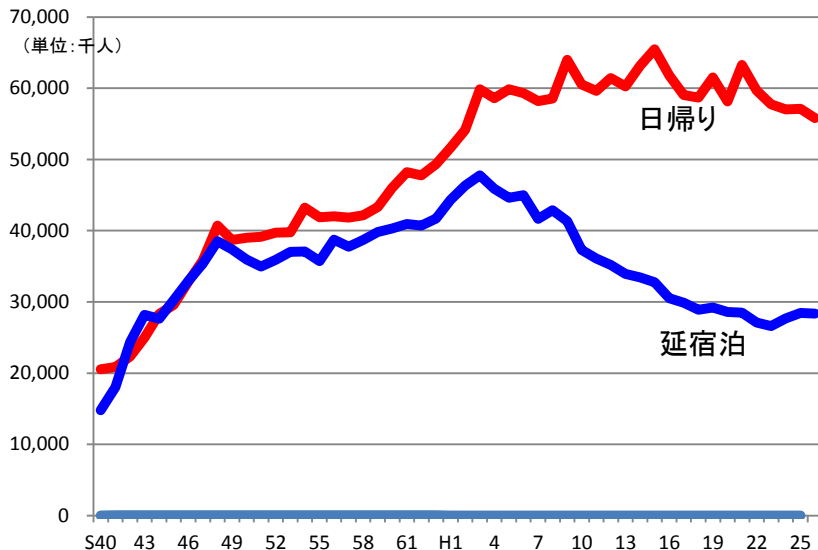
観光旅行者の推移

観光地利用者統計調査(長野県)

■観光旅行者数及び観光消費額の推移



■日帰り客と延宿泊者の推移



▶長野県の観光旅行者数は平成3年をピークに減少傾向にある。

▶観光消費額についても長野オリンピック開催の平成10年をピークに減少している。

▶要因

- ・リーマンショックや円高による景気後退
- ・団体旅行から個人旅行へ旅行形態が変化
- ・スキー客の減少
- ・高速交通網の整備に伴う日帰り圏化

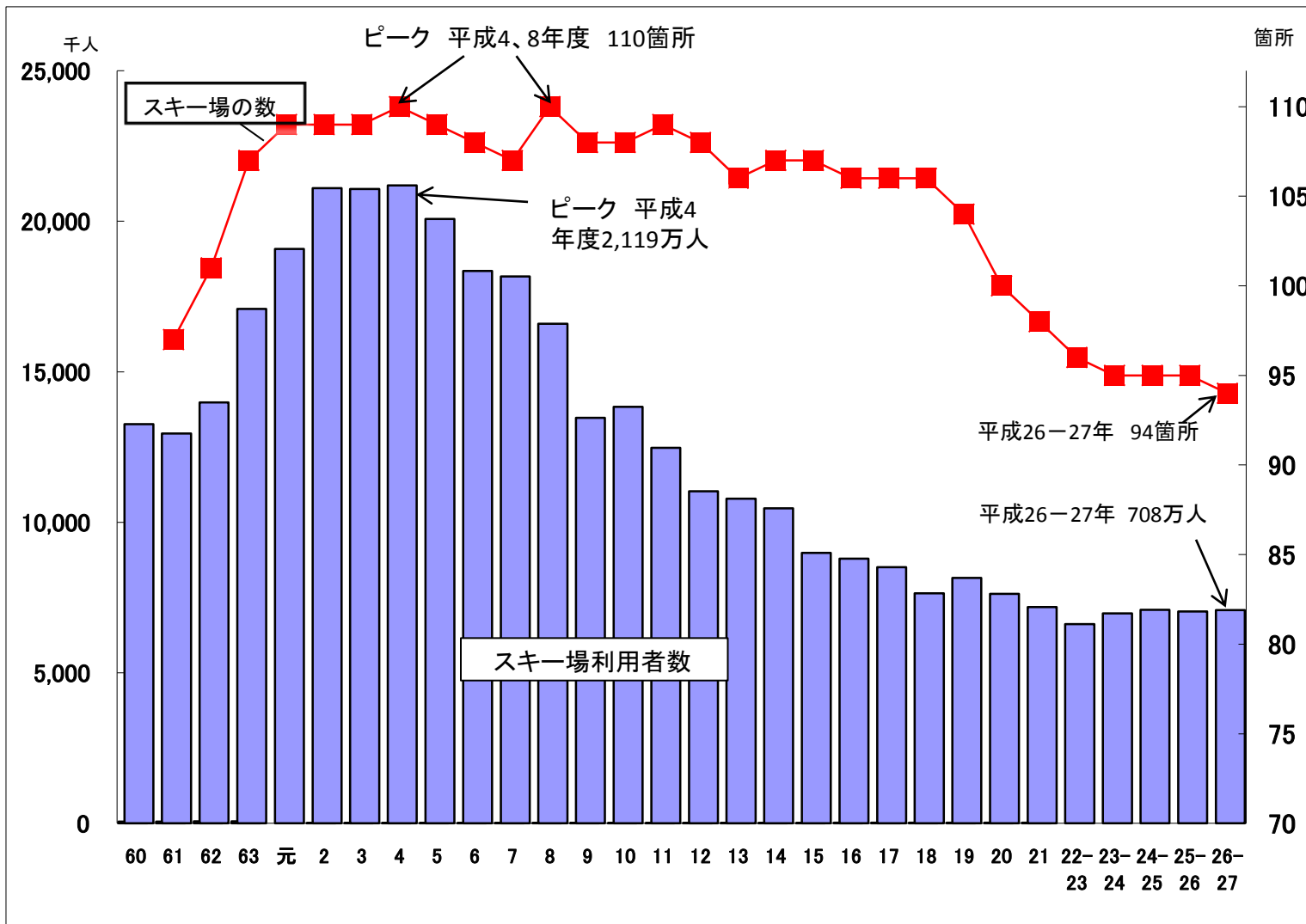
(単位: 万人、億円、%)

区分	昭和53年	平成3年	10	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
延利用者数	7,682	10,764	10,028	9,821	9,229	8,894	8,756	9,073	8,675	9,174	8,680	8,435	8,473	8,555	8,418
対前年伸び率	-	7.1	△ 4.8	1.6	△ 6.0	△ 3.6	△ 1.6	3.6	△ 4.4	5.8	△ 5.4	△ 2.8	0.5	1.0	△ 1.6
観光消費額	1,997	4,403	4,565	3,710	3,410	3,318	3,241	3,311	3,217	3,349	3,127	3,067	3,097	3,148	2,974
対前年伸び率	-	9.6	6.9	0.5	△ 8.1	△ 2.7	△ 2.3	2.1	△ 2.8	4.1	△ 6.6	△ 1.9	1.0	1.6	△ 5.5

スキー場利用者の推移

スキー・スケート場利用者統計調査(長野県)

■スキー場利用者数とスキー場数の推移



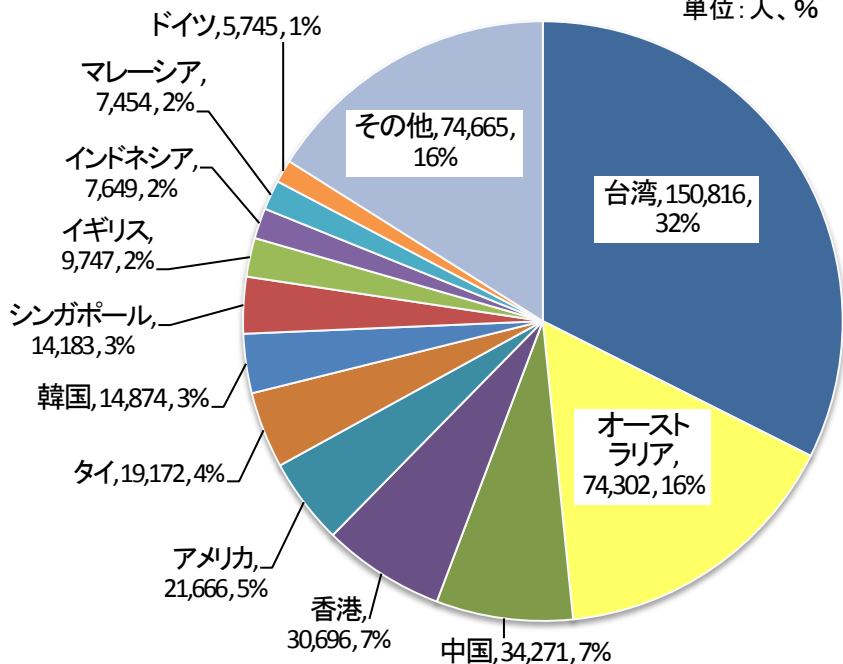
- スキー場利用者数は平成4年度をピークに急激に減少、平成26-27年は708万人でピーク時の3割程度に落ち込んでいる。
- 平成26-27年シーズンは、前シーズンより0.6%増加した。
- スキー場数については、平成18年以降減少傾向が続き、平成26-27年は94箇所(休止含む)となっている。

外国人宿泊者数の推移

外国人宿泊者数調査(長野県)

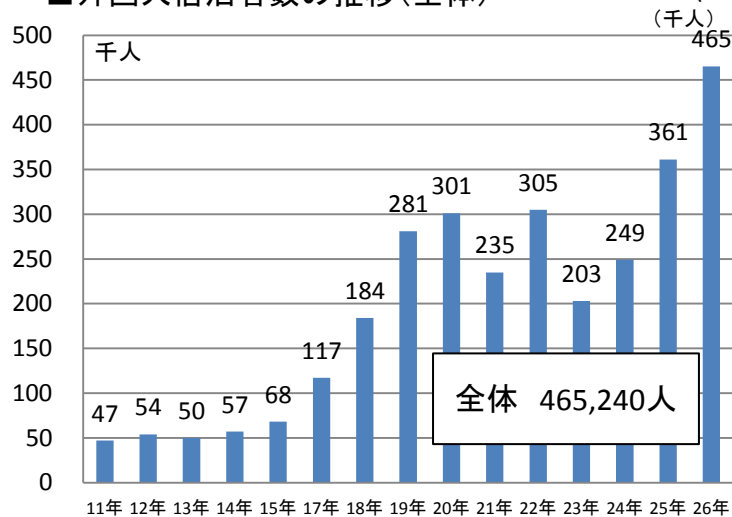
■国・地域別宿泊者数割合(平成26年)

単位:人、%



■外国人宿泊者数の推移(全体)

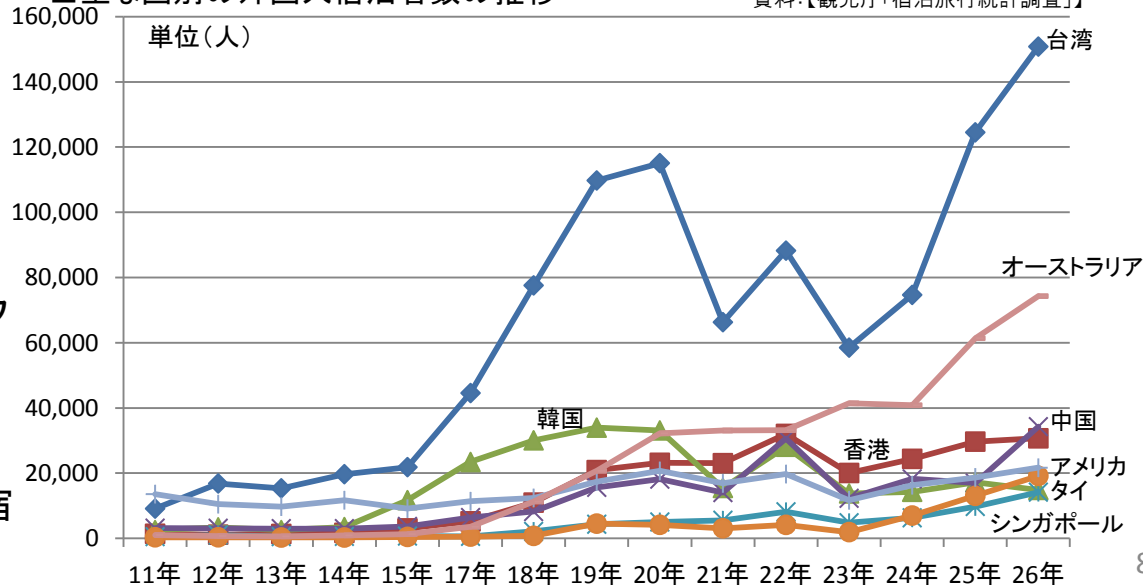
(参考)外国人宿泊者数の全国順位(H26)
(万人/年)



1位	東京都	1,320
2位	大阪府	620
3位	北海道	389
4位	京都府	329
5位	千葉県	267
6位	沖縄県	239
7位	愛知県	149
8位	神奈川県	143
9位	福岡県	136
10位	山梨県	95
11位	静岡県	79
12位	兵庫県	70
13位	長野県	66
14位	岐阜県	60
15位	長崎県	49

■主な国別の外国人宿泊者数の推移

資料:【観光庁「宿泊旅行統計調査」】



- 国別の割合では台湾が3割、アジア地域全体では過半数を占めている。
- 平成17年から急激に増加しているが、21年は新型インフルエンザや円高の影響で減少、23年は東日本大震災及び原発事故の影響で減少したが、24年以降回復傾向にあり、26年は11年以来最多となった。
- 平成26年は、台湾、オーストラリア、中国など13カ国の宿泊者数が過去最高となった。

宿泊旅行統計調査(観光庁)

■延宿泊者数(H26)

(万人)

1位	東京都	5,426
2位	北海道	3,098
3位	大阪府	2,837
4位	千葉県	2,120
5位	静岡県	2,102
6位	沖縄県	2,014
7位	神奈川県	1,920
8位	長野県	1,790
9位	京都府	1,699
10位	愛知県	1,540
11位	福岡県	1,523
12位	兵庫県	1,376
13位	福島県	1,106
14位	宮城県	1,026
15位	新潟県	961

■実宿泊者数(H26)

(万人)

1位	東京都	3,654
2位	北海道	2,318
3位	大阪府	1,984
4位	静岡県	1,696
5位	千葉県	1,620
6位	神奈川県	1,459
7位	長野県	1,342
8位	沖縄県	1,217
9位	愛知県	1,189
10位	福岡県	1,170
11位	京都府	1,144
12位	兵庫県	1,086
13位	福島県	794
14位	宮城県	772
15位	栃木県	763

※観光目的以外の宿泊者含む

※観光目的以外の宿泊者含む

じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

■延宿泊旅行者数

上位15位ランキング (万人)

1位	東京都	1,720
2位	北海道	1,027
3位	神奈川県	832
4位	静岡県	831
5位	長野県	773
6位	大阪府	769
7位	京都府	691
8位	千葉県	662
9位	兵庫県	567
9位	福岡県	499
10位	沖縄県	496
11位	愛知県	445
12位	栃木県	410
13位	三重県	407
14位	宮城県	350

旅行動向2011

((財)日本交通公社)

■宿泊観光入込客数(試算)

上位15位 (万人/年)

1位	北海道	1,396
2位	長野県	1,206
3位	静岡県	1,159
4位	東京都	988
5位	神奈川県	864
6位	千葉県	833
7位	栃木県	592
8位	京都府	579
9位	兵庫県	522
10位	群馬県	518
11位	沖縄県	481
12位	福島県	438
13位	新潟県	429
14位	大阪府	427
15位	三重県	414

※5年分の「旅行先」の構成比をもとに、都道府県ごとの年間入込客数を試算

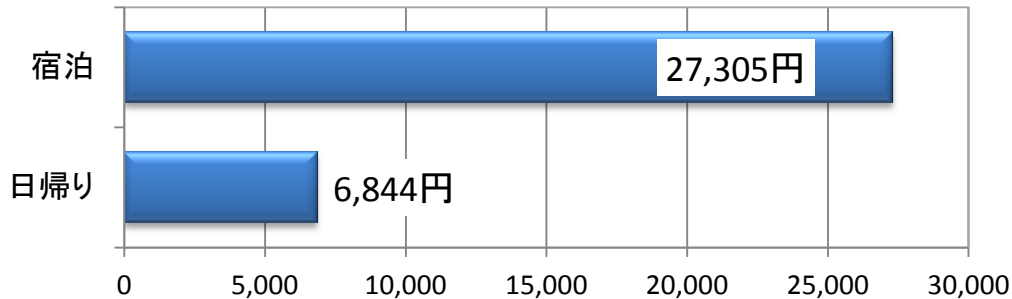
➤ 宿泊旅行者数は、ビジネス目的等を含む観光庁宿泊旅行統計調査では8位、観光旅行に限定した民間調査では、2位、5位と上位に位置している。

➤ どの調査においても、東京都、北海道、大阪府、静岡県、神奈川県などが上位に位置している。

観光地点パラメータ調査2014(長野県)

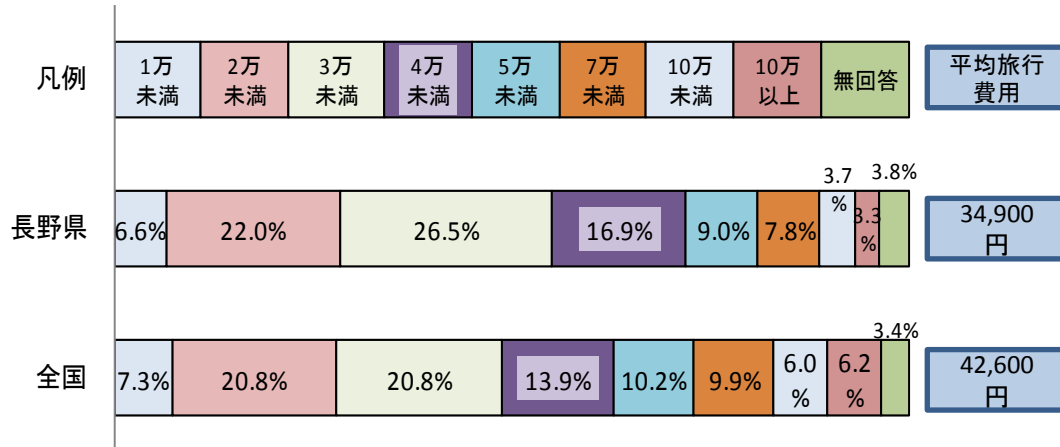
■旅行1回あたりの費用

※パック料金含む 内容: 交通費、宿泊費、飲食費、土産代、入場料、その他



旅行動向2011 ((財)日本交通公社)

■旅行費用価格帯シェア

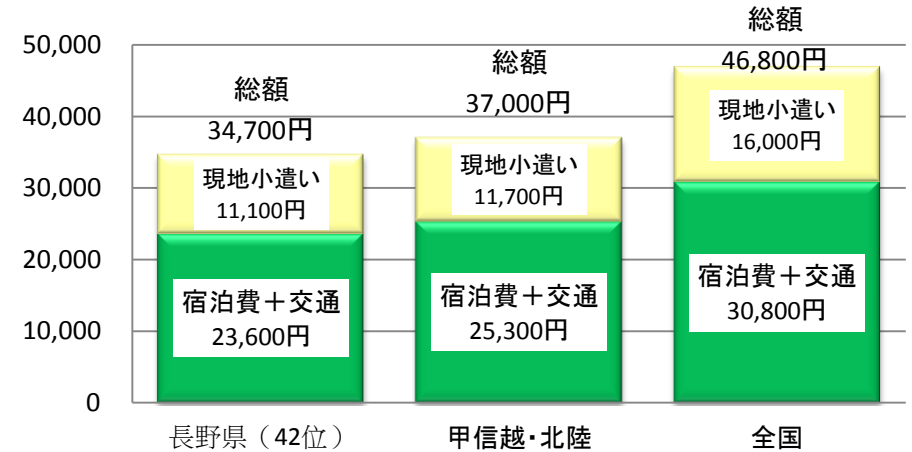


じゃらん宿泊旅行調査2014

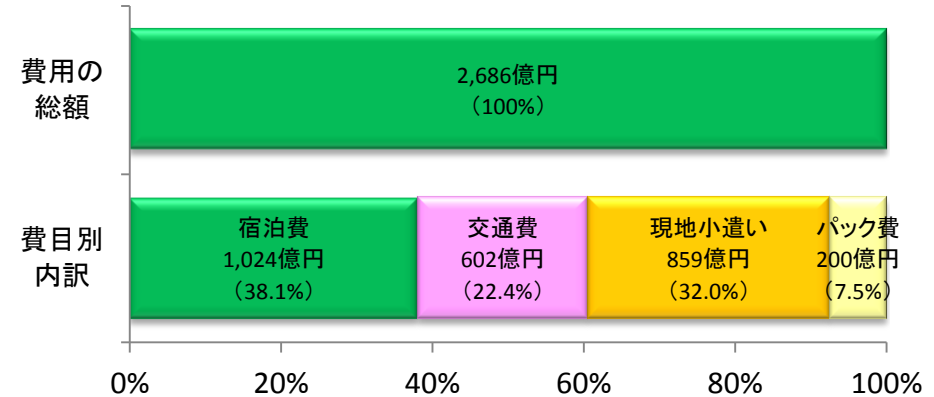
(株)じゃらんリサーチセンター

■宿泊旅行1回あたりにかかった費用

※各県への旅行件数ベース ※ただし、全体の0.5%トリム平均



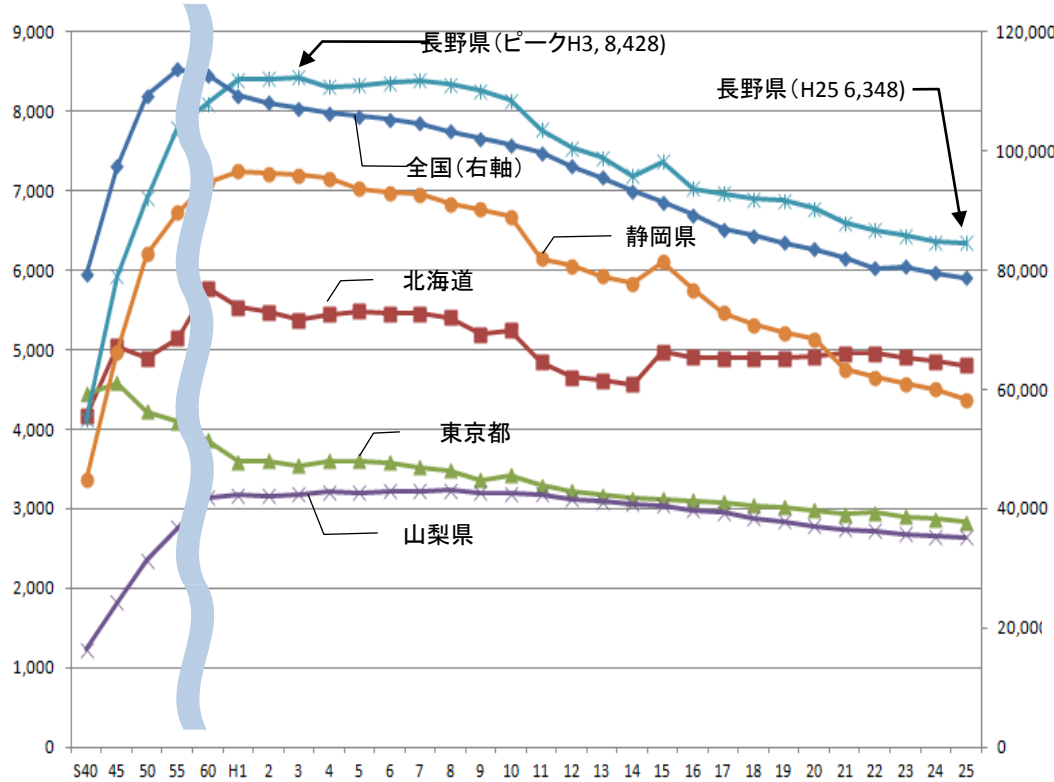
■長野県への宿泊旅行にかけられた費用の総額(推計値)



➤一人当たりの旅行費用は、じゃらん宿泊旅行調査と旅行動向2011ともに全国平均を下回っている。

■ 宿泊施設数上位5都道県の推移

※ホテル、旅館、簡易宿所の合計(下宿除く)
 ※平成8年以前は暦年

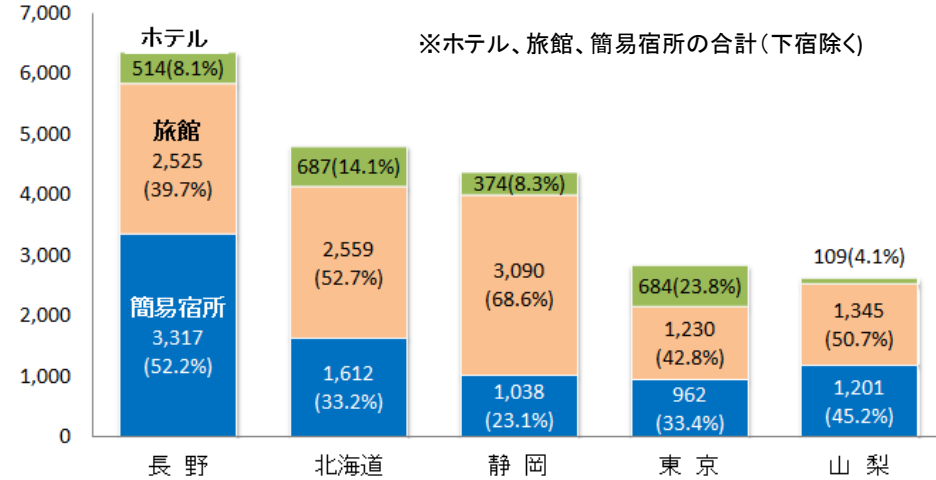


【厚生労働省 衛生行政報告例より作成】

- 全国的に施設数はS60以降減少傾向となっている。
- 上位の都道県の中では、長野県は簡易宿泊所の比率が目立って高い。これは、民宿やペンションの数が多いことを示している。
- 長野県の推移では、全ての形態の施設数が減少傾向となっている。
- 割合では、簡易宿泊所の比率が相対的に増加している。

■ 施設数上位5都道県の種類別施設数(平成25年度)

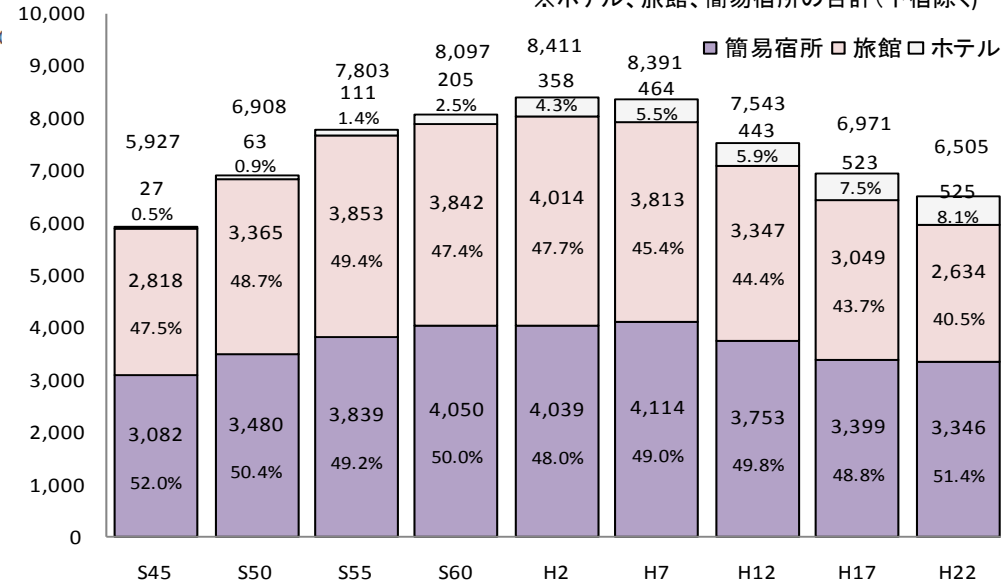
※ホテル、旅館、簡易宿所の合計(下宿除く)



【厚生労働省 衛生行政報告例より作成】

■ 長野県の種類別施設数推移

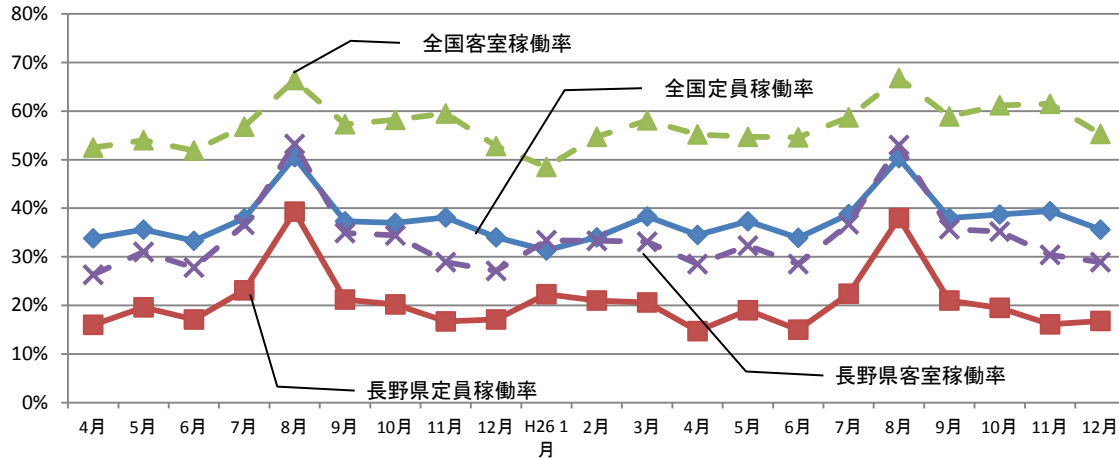
※ホテル、旅館、簡易宿所の合計(下宿除く)



【厚生労働省 衛生行政報告例より作成】

宿泊旅行統計調査(観光庁)

■ 定員稼働率、客室稼働率の推移 (H25.4月～H26.12月)



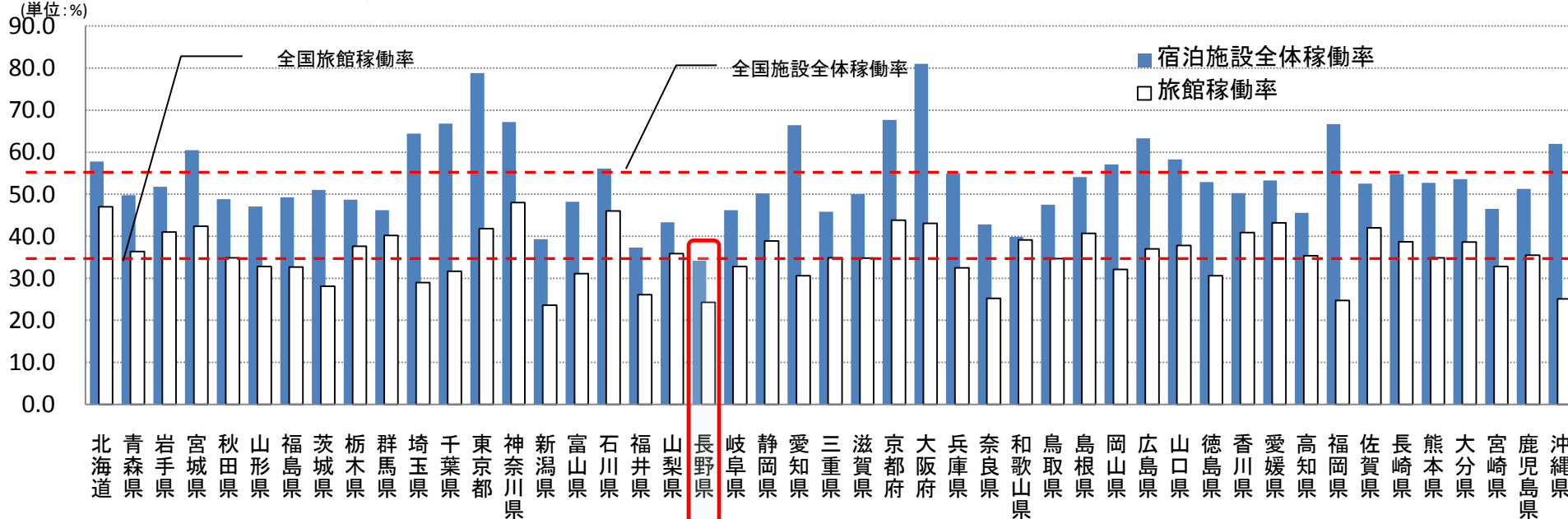
▶ 定員稼働率、客室稼働率の月別推移の傾向は、概ね全国の傾向と同様であるが、稼働率の水準は全国平均を下回っている。

▶ 客室稼働率の都道府県比較では、旅館は46位、施設全体は47位と最下位水準になっている。

(参考) 宿泊施設の種類別割合

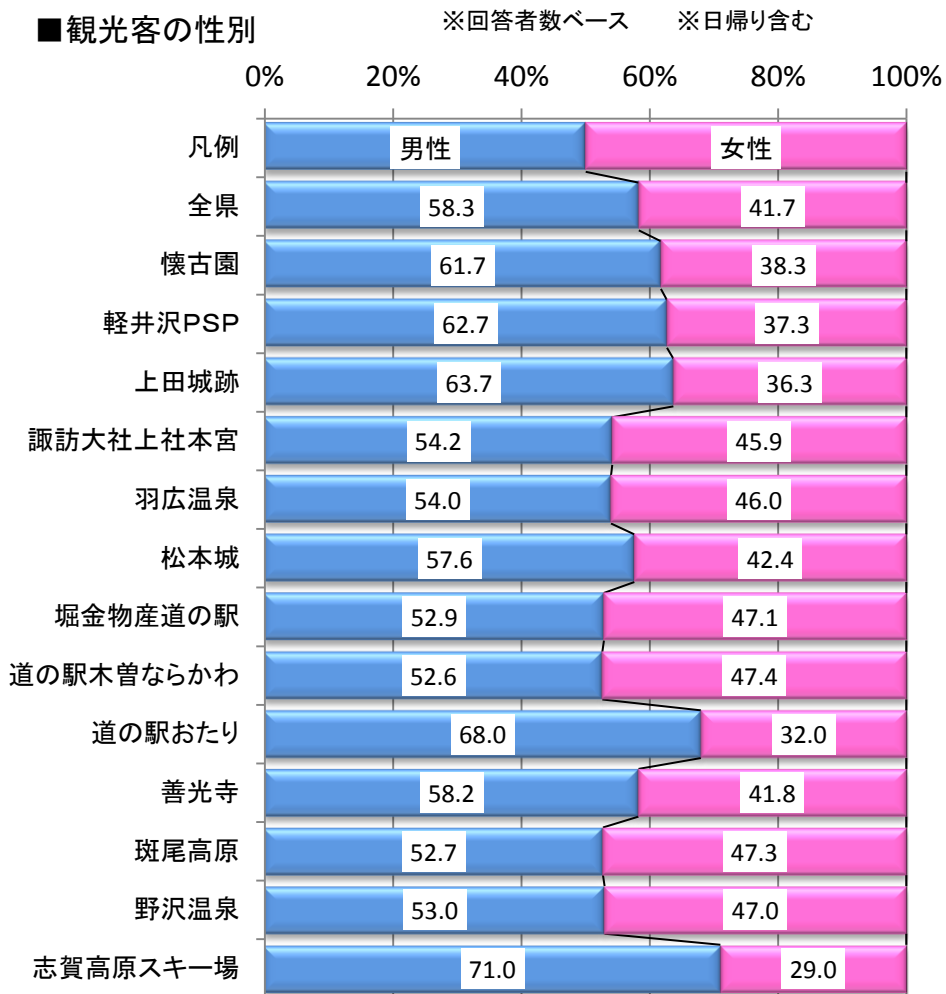
	旅館	リゾートホテル	ビジネスホテル	シティホテル	会社・団体の宿泊所	簡易宿所
全国	47.9%	5.3%	14.0%	2.1%	4.5%	26.3%
長野県	53.3%	8.2%	3.5%	0.2%	6.0%	28.8%

■ 都道府県別客室稼働率(施設種類全体と旅館・H26.1月～12月)



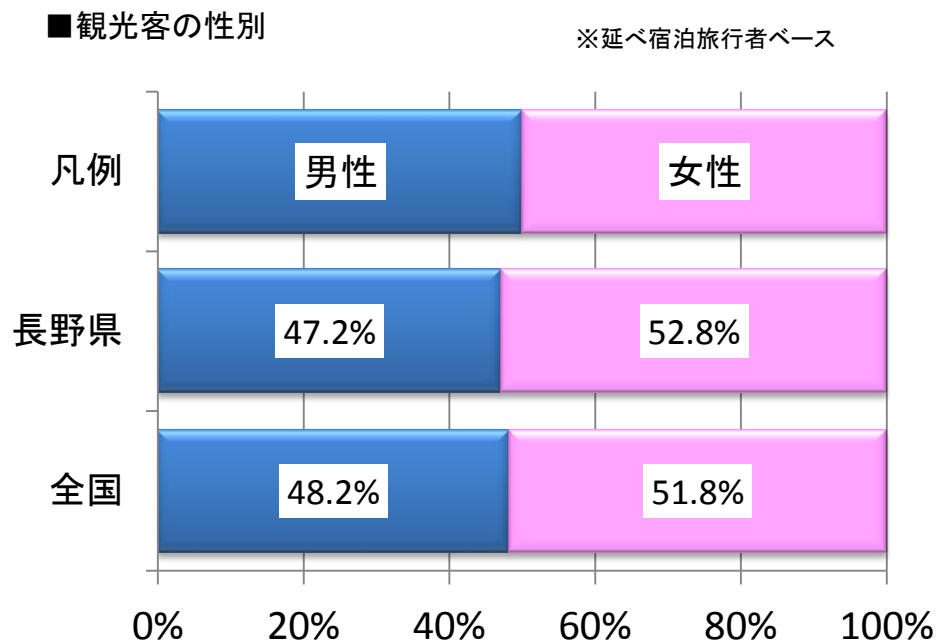
観光客の属性(性別)

観光地点パラメータ調査2014(長野県)



じゃらん宿泊旅行調査2014

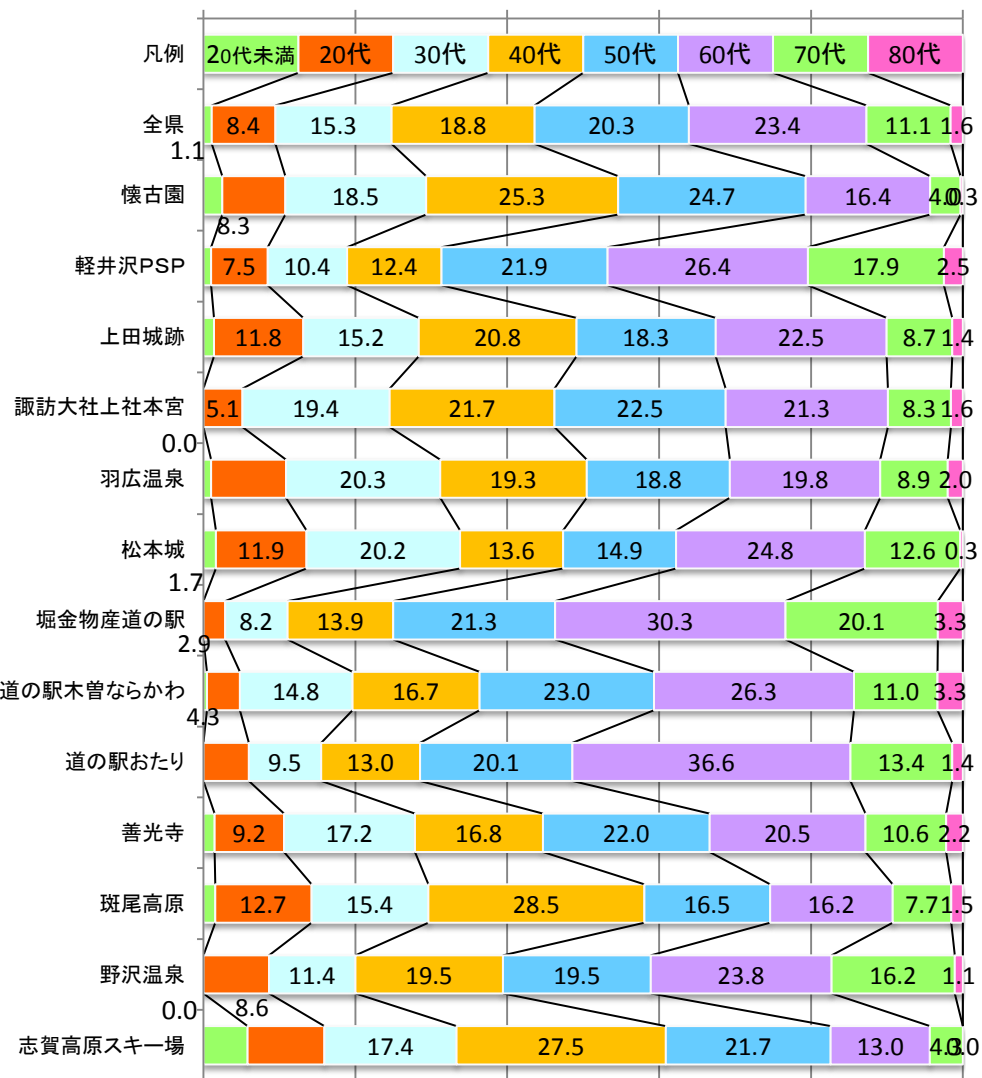
(株)じゃらんリサーチセンター



観光地点パラメータ調査2014(長野県)

■観光客の年代別構成

※回答者数ベース ※日帰り含む

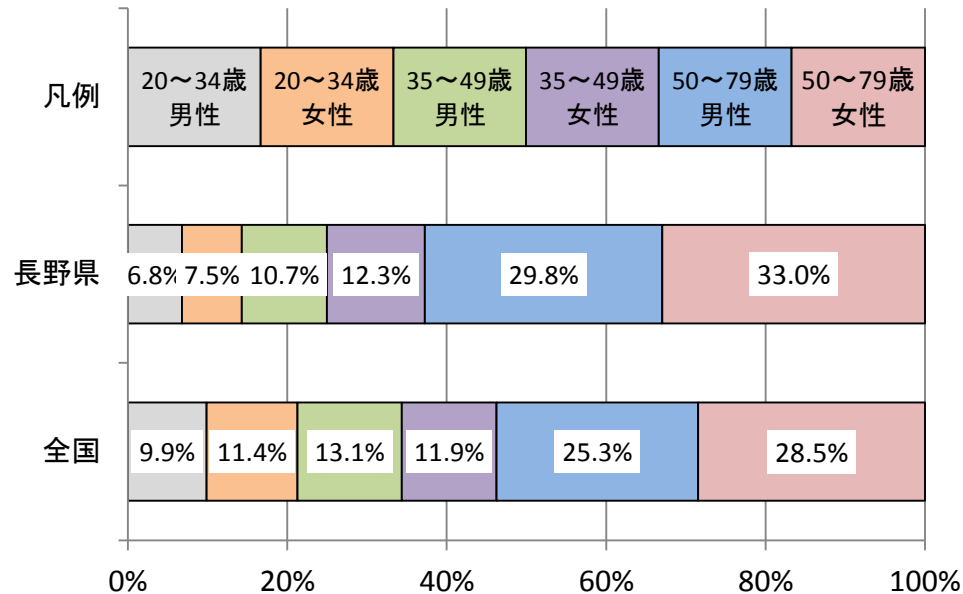


じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

■観光客の年代別構成

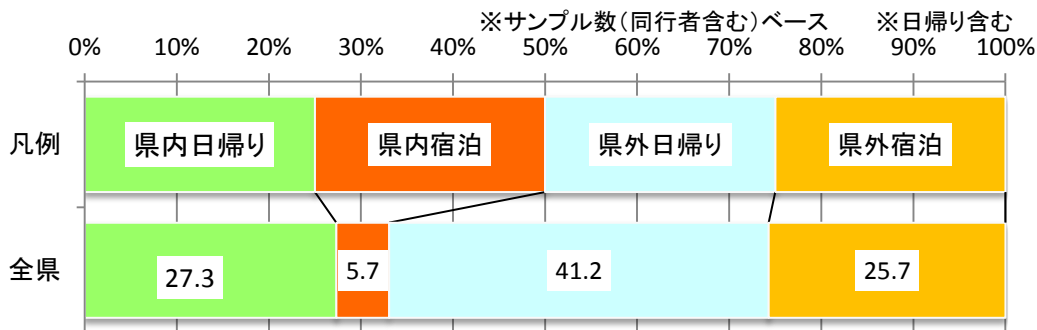
※延べ宿泊旅行者ベース



- 観光地点毎の特徴としては、60歳代以上の比率が高いのが道の駅(堀金、おたり)となっている。志賀高原、斑尾高原は30歳代以下の比率が高い。
- 全県では、50歳代以上の割合が過半数を占めている。

観光地点パラメータ調査2014(長野県)

■ 県内・県外、日帰り・宿泊別割合



▶観光地点パラメータ調査では、約7割が県外を占めており、宿泊者は全体の3割となっている。

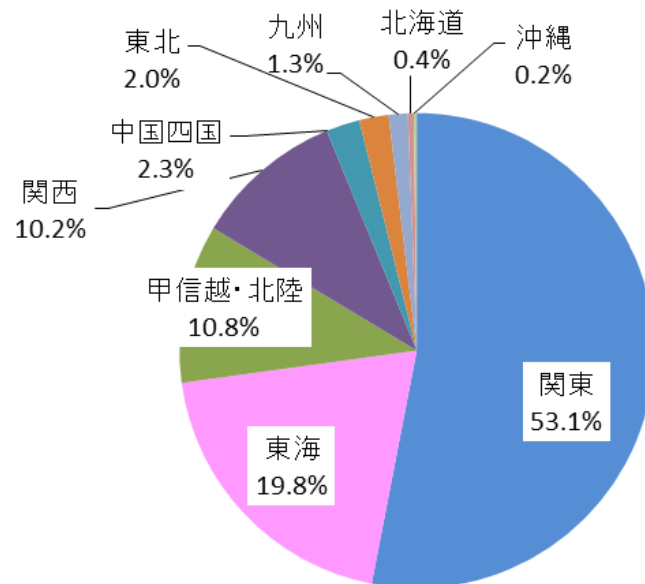
▶宿泊旅行者の居住地ブロックは、日帰りを含めた全体では関東エリアが約4割、宿泊旅行では関東エリアが過半数を占めている。

じゃらん宿泊旅行調査2014

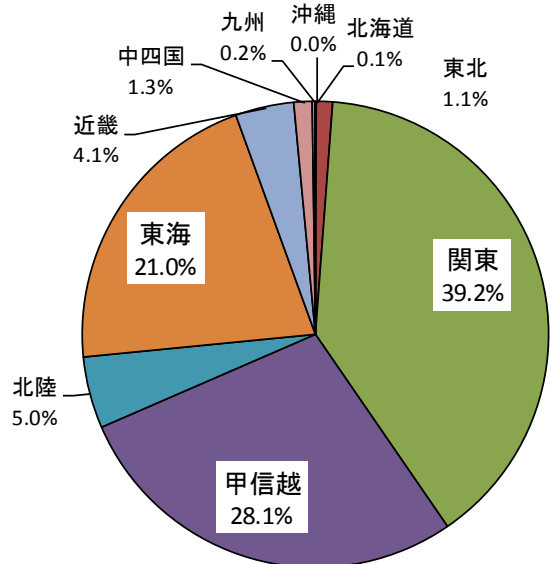
(株)じゃらんリサーチセンター

■ 宿泊旅行者の居住地ブロック

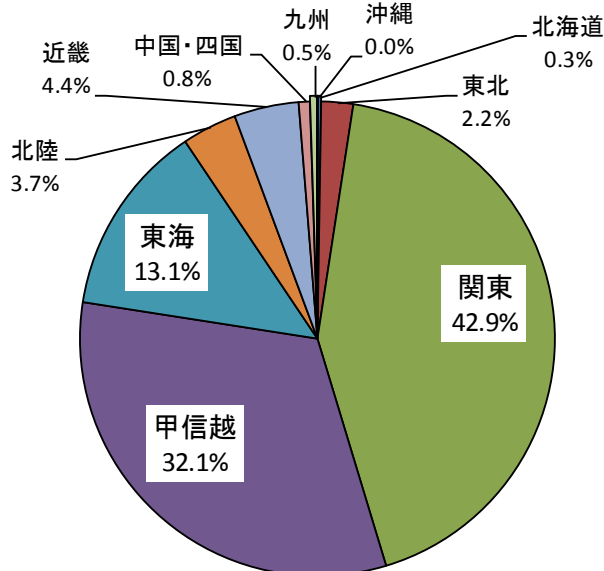
※延べ宿泊旅行者ベース



■ 旅行者の居住地ブロック (宿泊・日帰り全体)



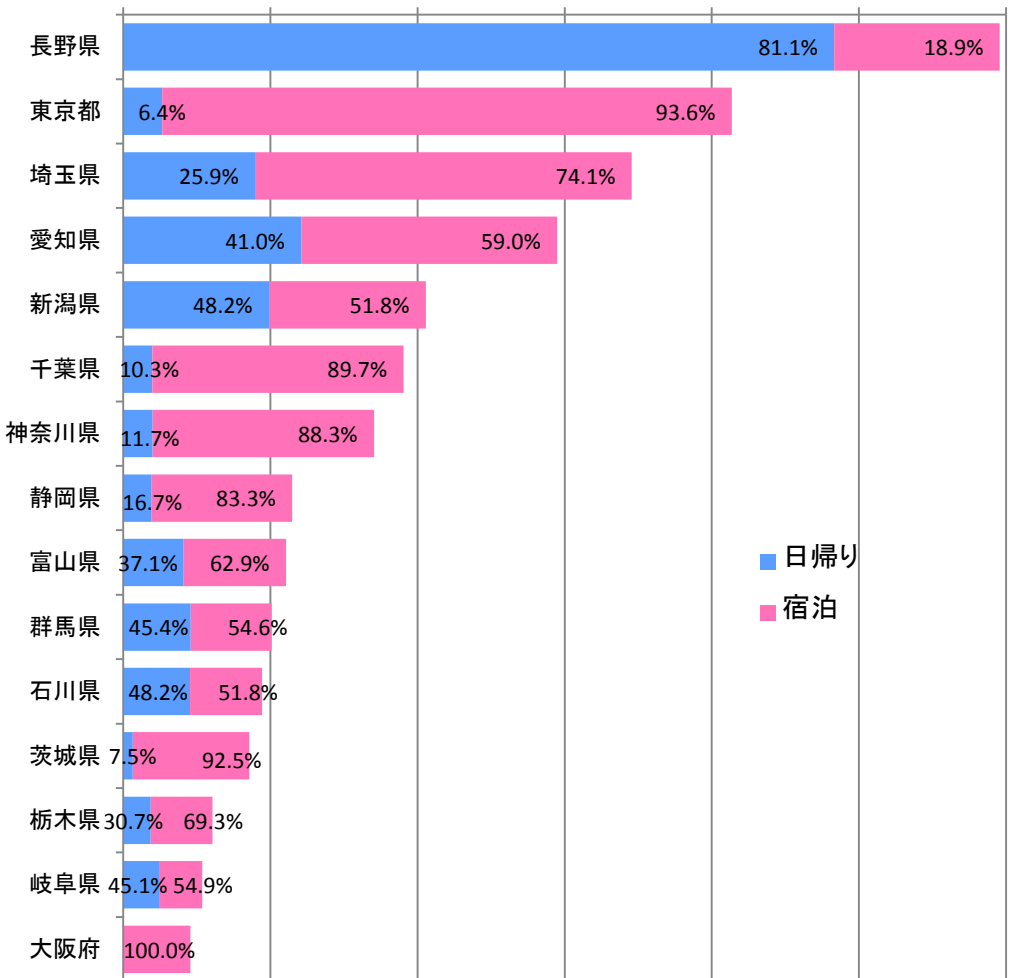
■ 宿泊旅行者の居住地ブロック



観光地点パラメータ調査2014(長野県)

■長野県への旅行者の居住地(上位15)

※サンプル数(同行者含む)ベース ※日帰り含む (単位:人)

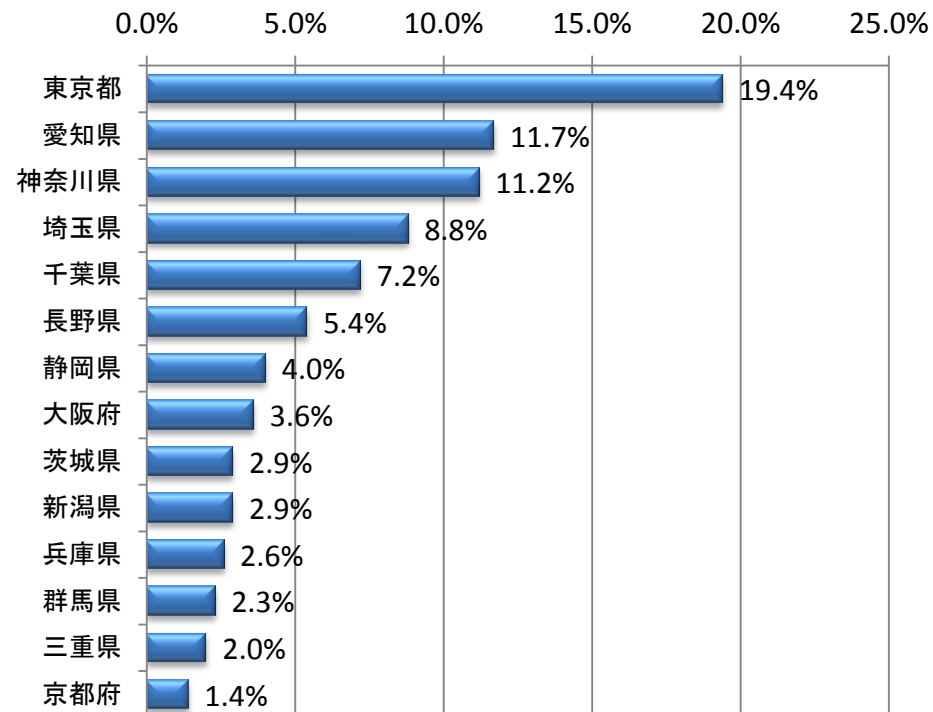


じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

■長野県への宿泊旅行者の居住地(上位15)

※延べ宿泊旅行者ベース

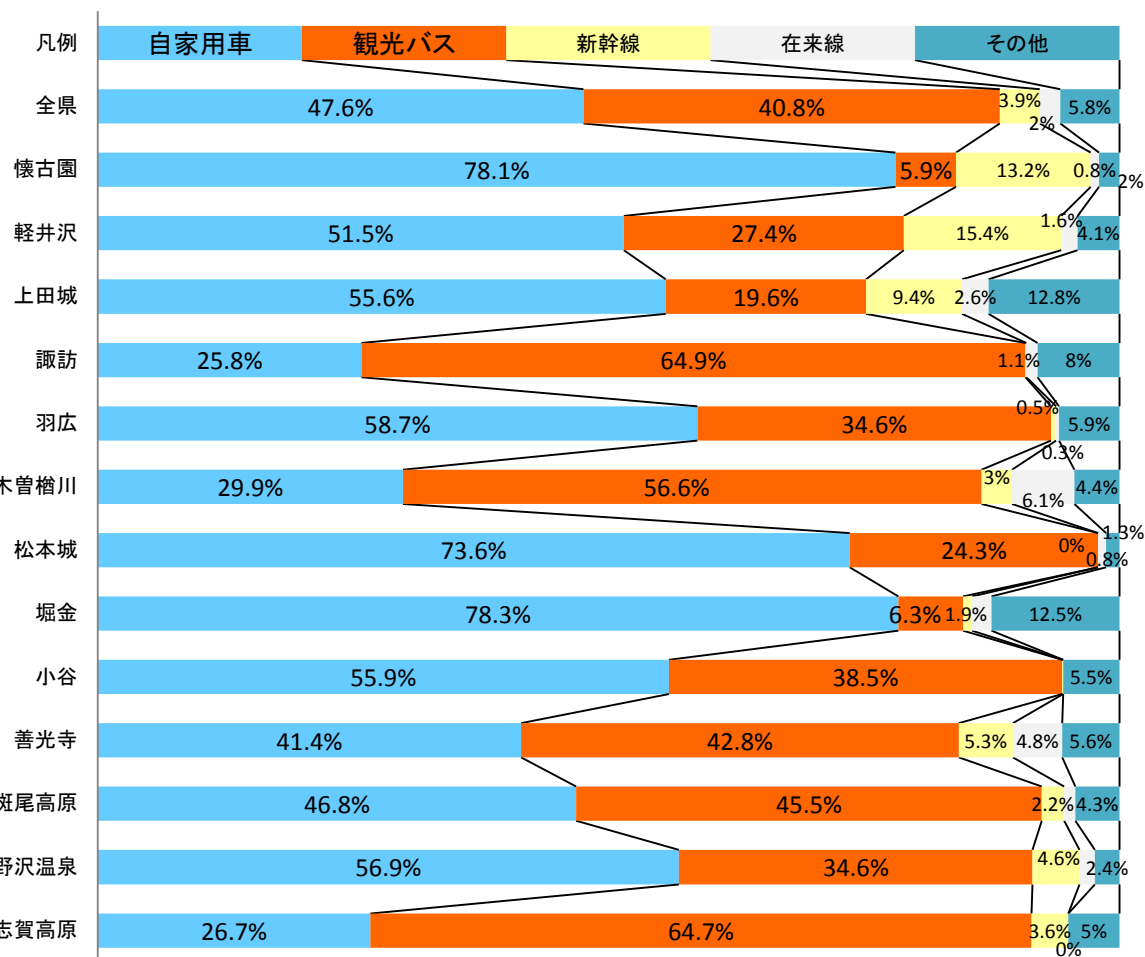


▶観光地点パラメータ調査結果において、隣接県からの旅行者は日帰り客の比率が高くなっている。

▶観光地点パラメータ調査及びじゃらん宿泊旅行調査2014ともに、宿泊旅行者のシェアが一番高いのは東京都であった。

観光地点パラメータ調査2014(長野県)

■観光地点までの交通手段 ※サンプルベース ※日帰り含む

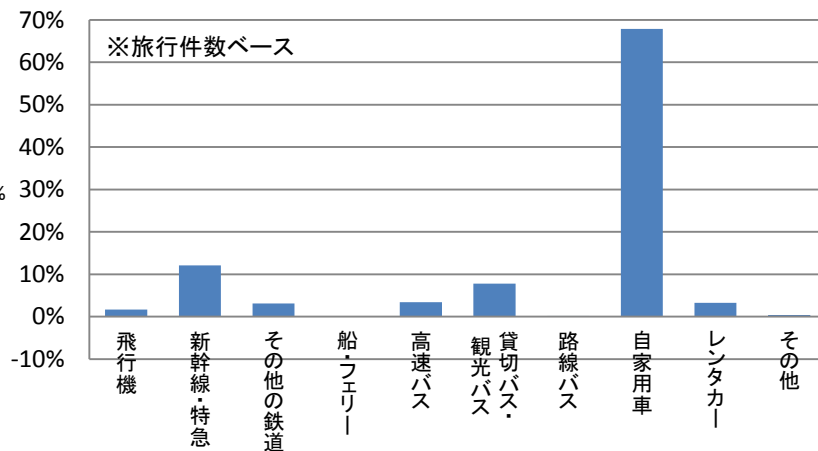


▶両調査結果とも自家用車の利用者が5割以上を占め、自家用車、バスなどのクルマ利用者は全体の8割以上を占めている。

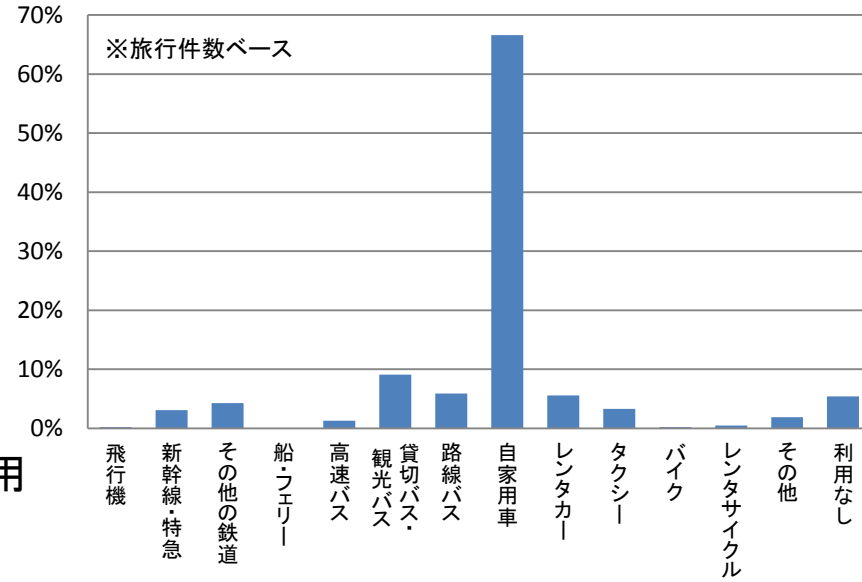
じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

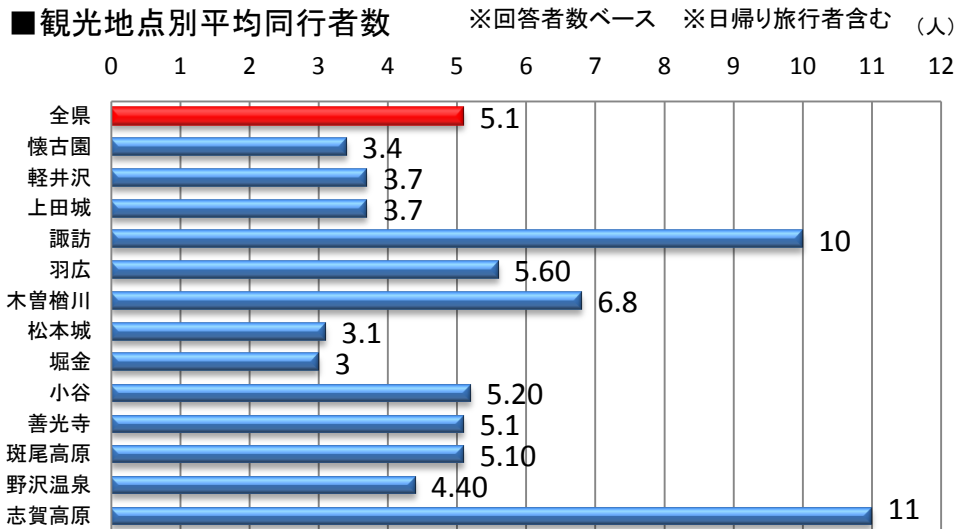
■目的地に着くまでに利用した主な交通手段(単一回答)



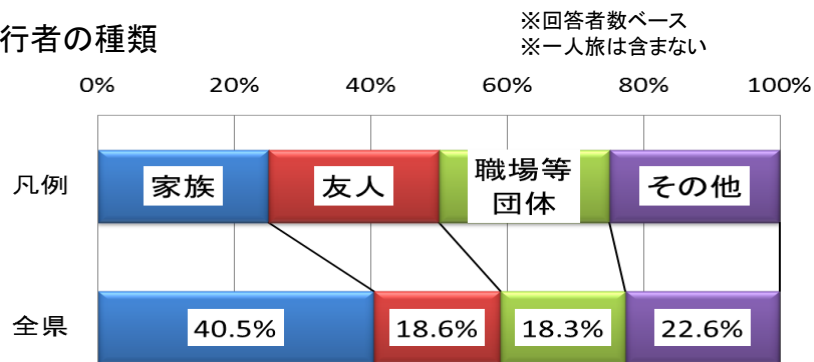
■目的地に着いてから利用した交通手段(複数回答)



観光地点パラメータ調査2014(長野県)



同行者の種類



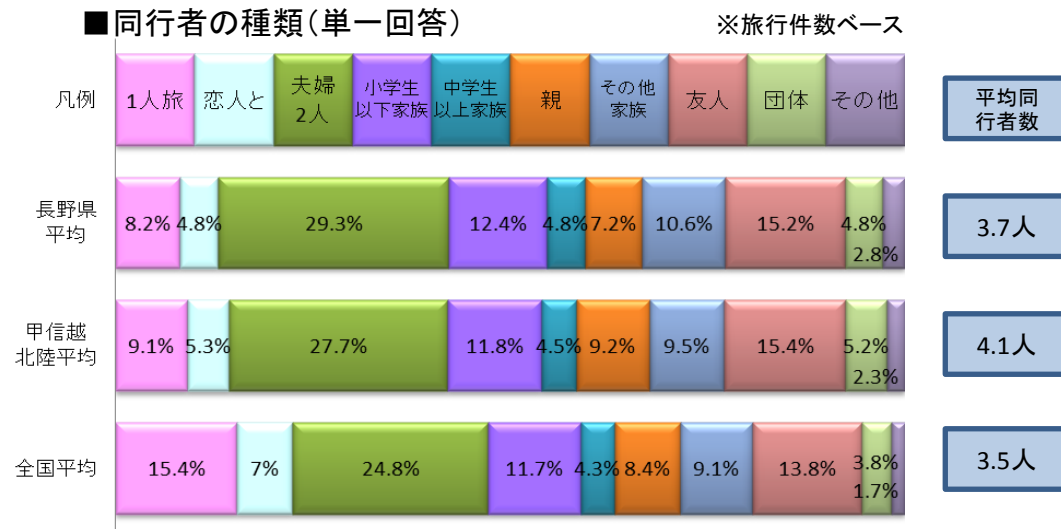
▶平均同行者数は、日帰りを含む観光地点パラメータ調査では5.69人となっている。じゃらん宿泊旅行調査においては4.3人となり、全国平均よりも多くなっている。

▶同行者の種類は、どの調査でも「家族」の割合が過半数を占めている。

じゃらん宿泊旅行調査2014

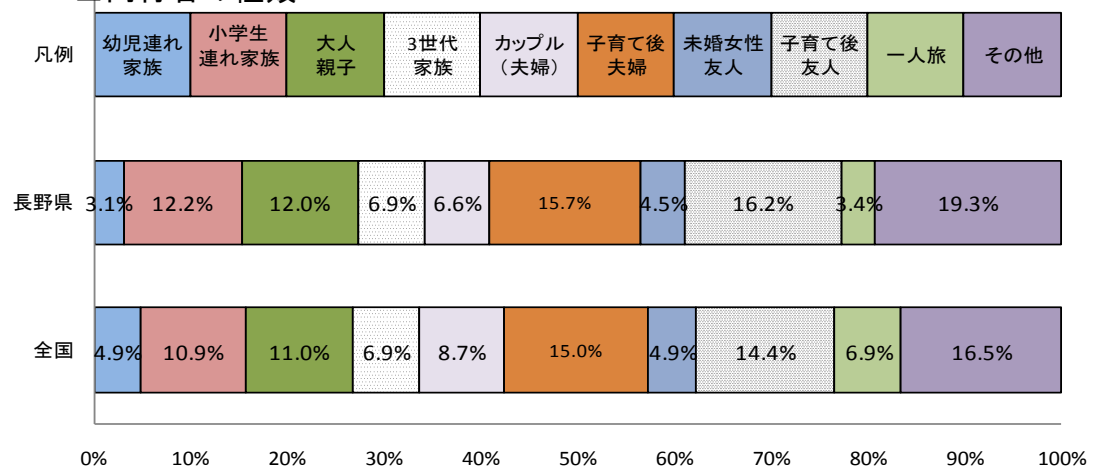
(株)じゃらんリサーチセンター

同行者の種類(単一回答)



旅行者動向2011((財)日本交通公社)

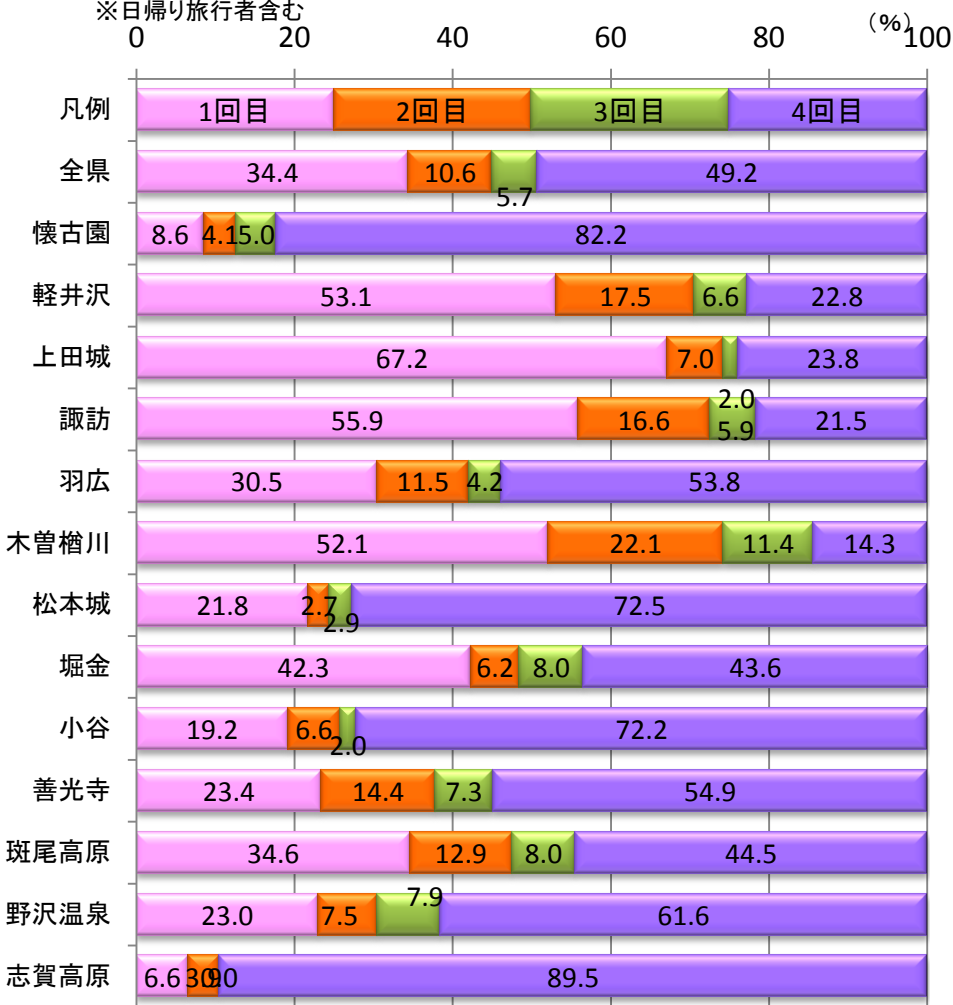
同行者の種類



観光地点パラメータ調査2014(長野県)

■観光地点への来訪回数

※同行者全員の訪問回数がかかる場合の人数の、サンプル数に対する割合
 ※「全県」については、長野県への来訪回数
 ※日帰り旅行者含む

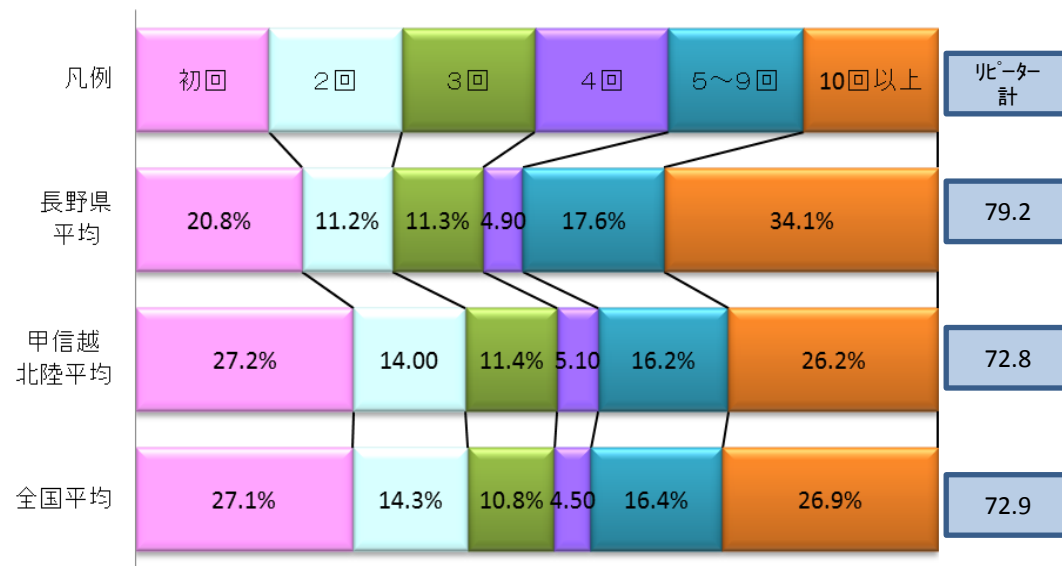


じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

■来訪経験(単一回答)

※旅行件数ベース

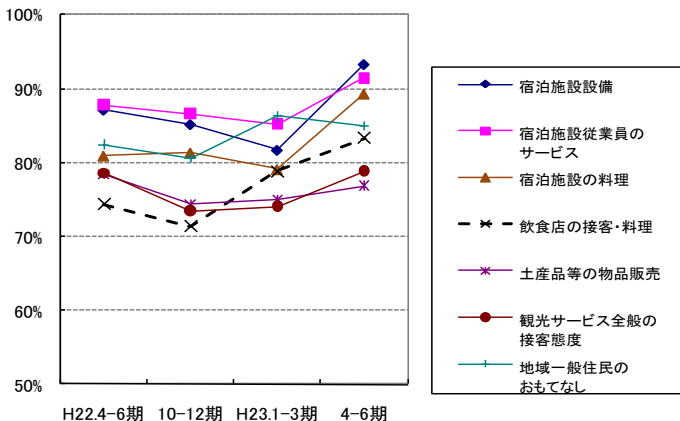


▶観光地点別では、軽井沢、堀金で4回以上の来訪者が多い。

▶じゃらん宿泊旅行調査では、10回以上、5~9回の割合が全国平均及び甲信越・北陸平均を上回っており、本県へのリピーター率は高水準であるといえる。

観光地点パラメータ調査(長野県) ※平成22年、23年調査

■長野県の観光サービス満足者の割合

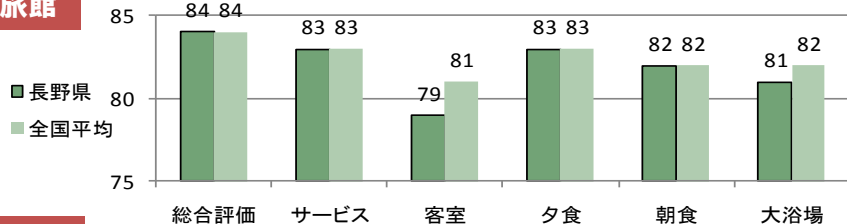


JTB宿泊統計年報2011

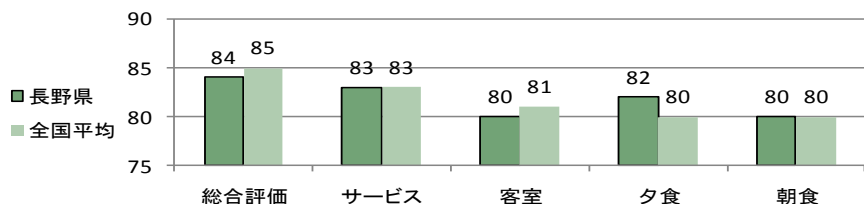
(株)ツーリズム・マーケティング研究所

■宿泊施設の評価点(JTB宿泊アンケート)

旅館



ホテル



じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

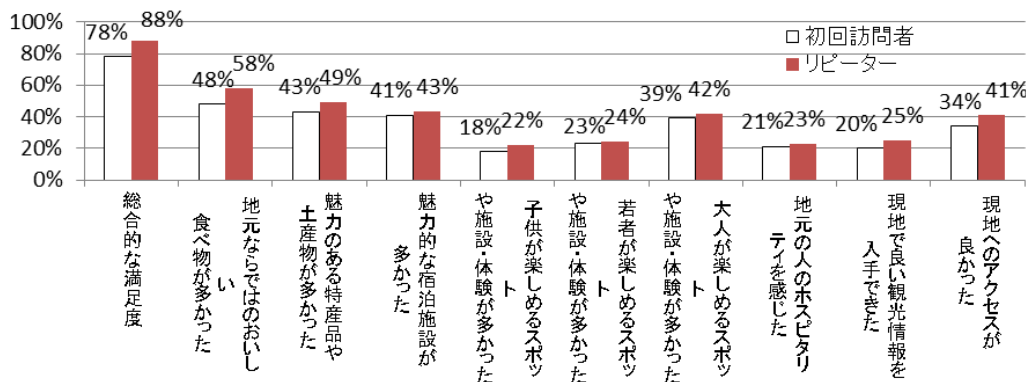
■総合的な満足度と項目別評価(単一回答)

※旅行件数ベース

	長野県	順位
総合的な満足度	86%	14位
地元ならではのおいしい食べ物が多かった	56%	33位
魅力のある特産品や土産物が多かった	48%	28位
魅力的な宿泊施設が多かった	43%	18位
子供が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	21%	21位
若者が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	24%	15位
大人が楽しめるスポットや施設・体験が多かった	41%	16位
地元の人のホスピタリティを感じた	23%	27位
現地で良い観光情報入手できた	24%	28位
現地へのアクセスが良かった	39%	30位

※総合的な満足度の全国平均は84%

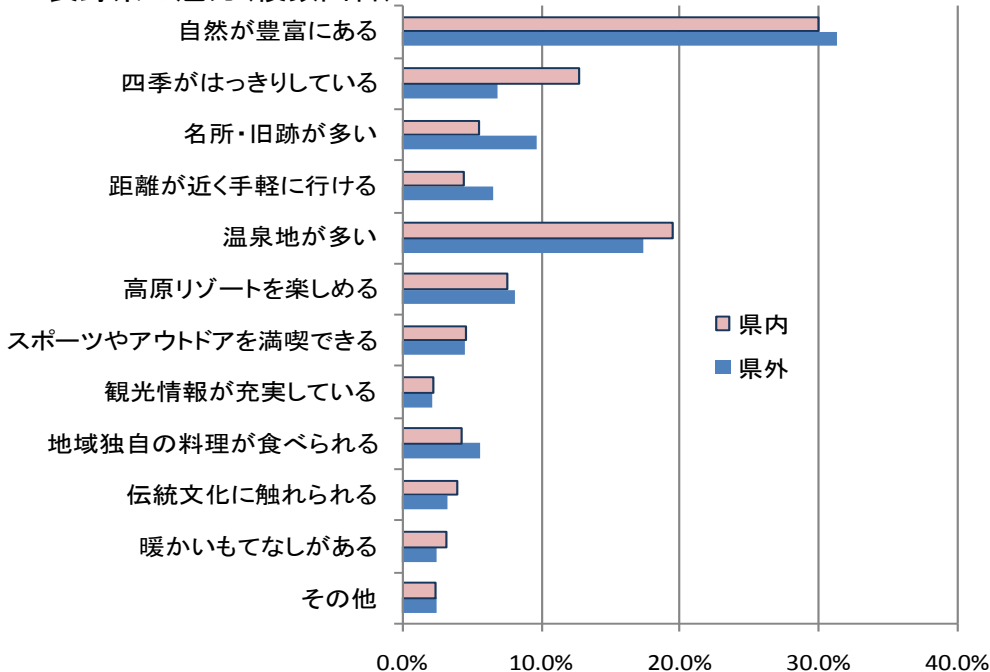
■来訪経験別にみた、総合的な満足度と項目別評価



- ▶観光地点パラメータ調査による聞き取り調査では、宿泊施設関連の満足度が比較的高くなっている。
- ▶民間調査による満足度はほぼ全国平均並みとなっている。
- ▶じゃらん宿泊旅行調査では、初回訪問者、リピーターとも同様な評価となっている。

観光地点パラメータ調査(長野県) ※平成23年4-6月調査、n=1397

■長野県の魅力(複数回答)



▶観光地点パラメータ調査では、県内・県外ともに「自然が豊富」「温泉地が多い」の項目が多く、県外者は次いで「名所・旧跡が多い」となっている。

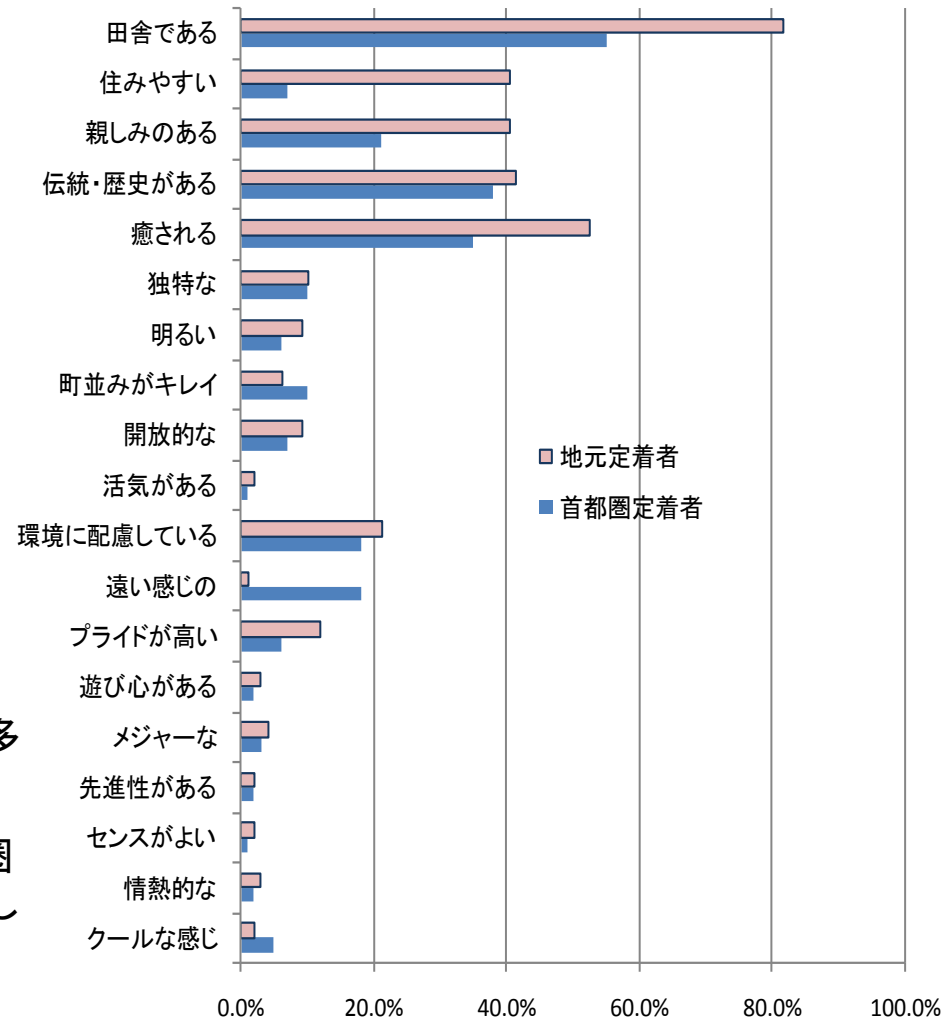
▶じゃらんご当地調査では、「田舎である」が地元定着者・首都圏定着者ともトップとなっており、以下「伝統・歴史」「癒される」「親しみのある」「住みやすい」が上位を占めている。

▶両調査から、県内者と県外者では長野県に対するイメージにギャップがあることがうかがえる。

じゃらんご当地調査2010

(株)じゃらんリサーチセンター

■長野県のイメージ(抜粋)

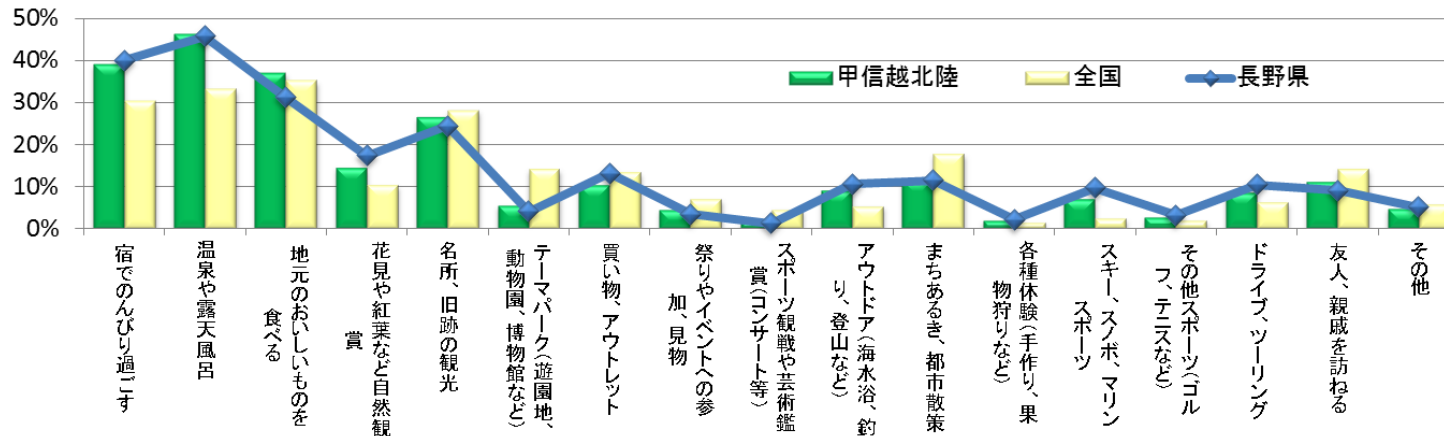


じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

■ 宿泊旅行時の目的

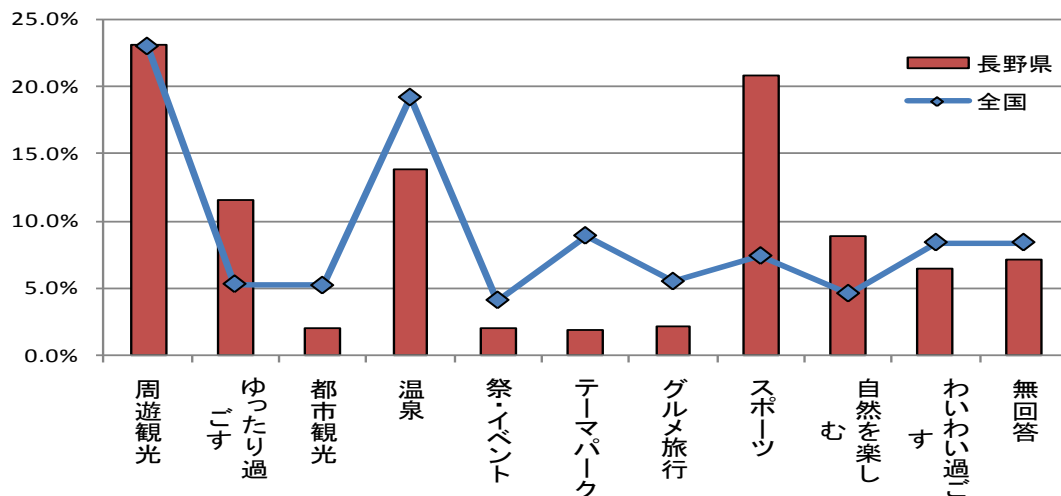
※旅行件数ベース



➤二つの調査からわかることは、温泉は高い割合であるが、全国平均との比較では必ずしも優位な数値ではない。

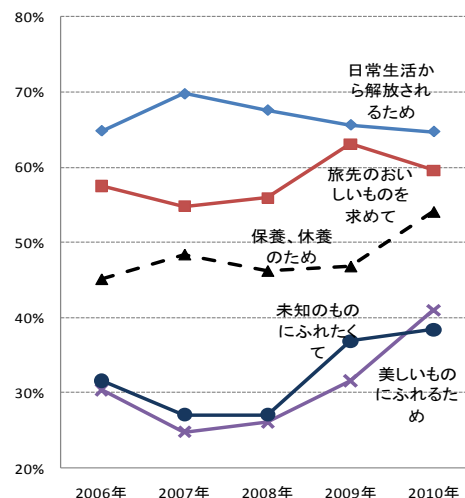
旅行者動向2011 ((財)日本交通公社)

■ 旅行タイプシェア



➤スキーなどスポーツ、アウトドアは全国平均よりも優位性がある。

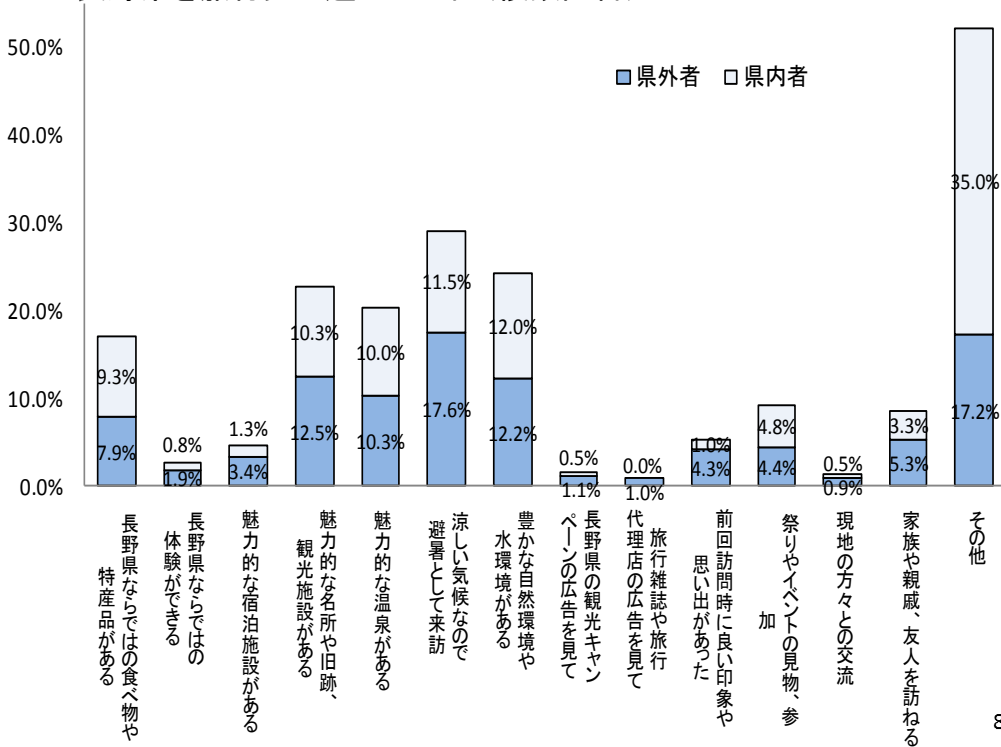
(参考) 旅行の動機上位5位の推移



➤一方、旅の楽しみの一つと言われている「食」については全国平均を下回っている。

観光地点パラメータ調査(長野県) ※平成23年7-9月調査、n=1175

■長野県を旅行先に選んだ理由(複数回答)



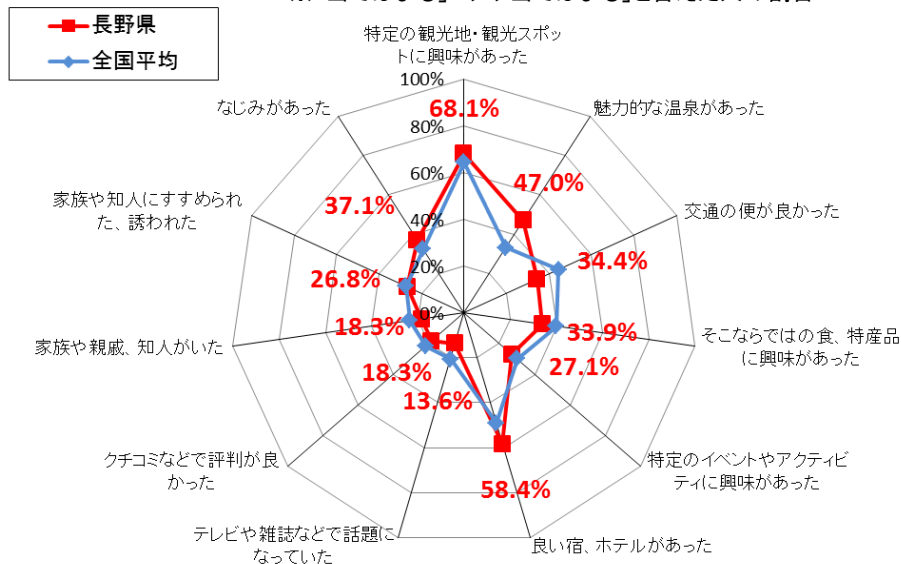
じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

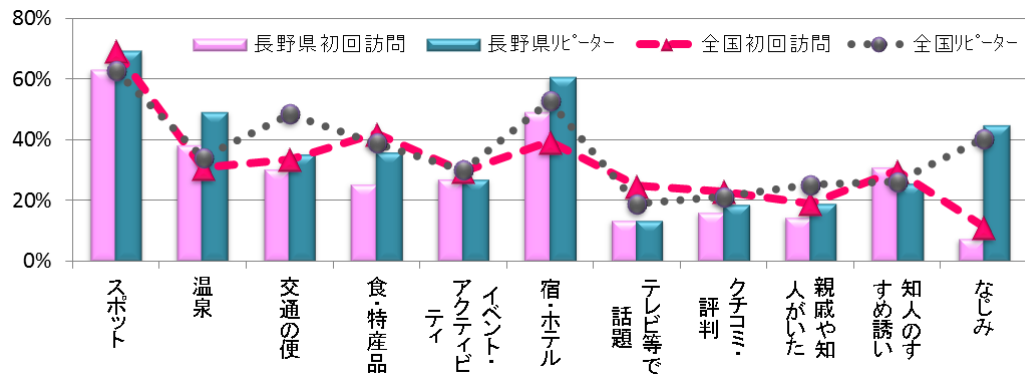
■長野県を旅行先に選んだ理由(単一回答)

※旅行件数ベース

※「当てはまる」「やや当てはまる」と答えた人の割合



■来訪経験別にみた、この旅行先を選んだ理由



➤パラメータ調査では、県内者、県外者ともに「避暑」「自然環境」「温泉」が上位になっている。

➤じゃらんの調査における全国平均との比較では、「温泉」や「宿・ホテル」「なじみがある」の項目が高くなっている。

➤来訪経験別に見ると、多くの項目でリピーターの方が高く、リピーターについては「魅力的なスポット」「温泉」「宿・ホテル」「なじみ」で全国平均を上回っている。

じゃらん宿泊旅行調査2014

(株)じゃらんリサーチセンター

旅行者動向2011 ((財)日本交通公社)

■ 回答者全体の来訪意向 (複数回答)

※宿泊旅行実施者ベース
※今後1年くらいに行ってみたい都道府県

順位	都道府県	来訪意向率 (%)
1位	北海道	30.0
2位	沖縄県	27.6
3位	京都府	15.6
4位	東京都	11.4
5位	大阪府	6.2
6位	長野県	6.1
6位	鹿児島県	6.1
8位	長崎県	5.5
9位	神奈川県	5.4
10位	福岡県	5.2
11位	千葉県	4.4
12位	石川県	4.2
12位	静岡県	4.2
14位	青森県	3.6
14位	熊本県	3.6
14位	大分県	3.6

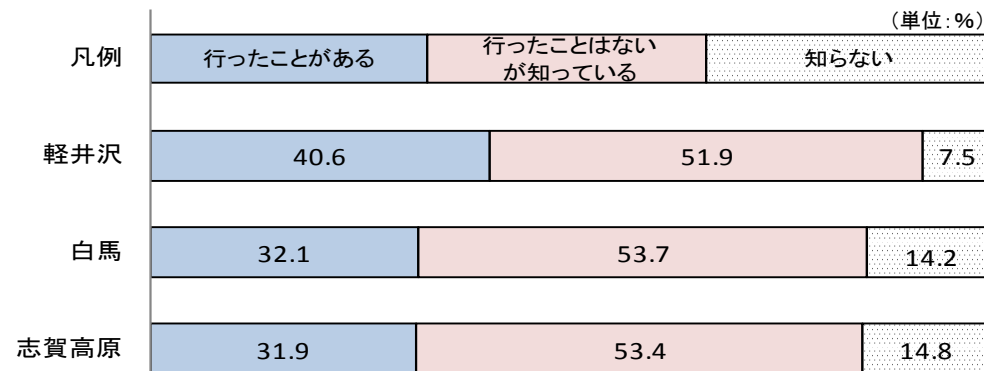
■ 宿泊旅行者の再来訪意向

※各県への宿泊旅行者ベース

順位	都道府県	来訪意向率 (%)
1	沖縄県	43.3
2	北海道	40.2
3	東京都	28.0
4	長野県	21.8
5	京都府	21.4
6	千葉県	20.9
7	神奈川県	15.2
8	宮城県	14.9
9	大阪府	14.6
10	福島県	14.5
11	静岡県	13.8
11	福岡県	13.8
13	秋田県	13.6
14	栃木県	13.3
15	岩手県	13.0

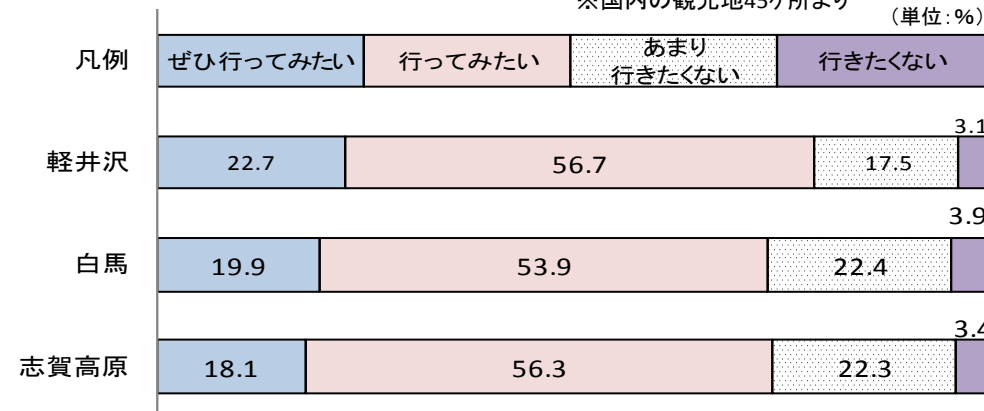
■ 来訪経験

※国内の観光地45ヶ所より



■ 来訪意向

※国内の観光地45ヶ所より

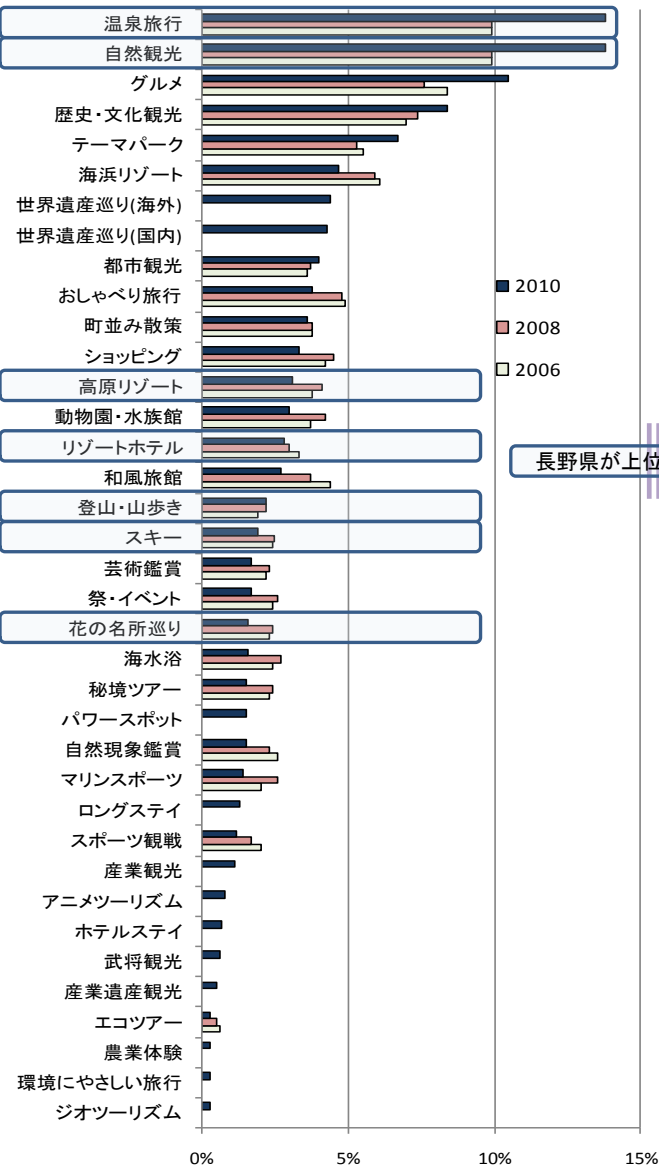


▶じゃらん宿泊旅行調査によると、来訪意向が全国6位、再来訪意向が全国4位となっており、上位に位置しているが、1位、2位の北海道・沖縄県に比べると意向率に大きな開きがある。

▶旅行動向2011では、軽井沢、白馬、志賀高原ともに認知度(行ったことはないが知っている)は50%以上、来訪意向率も7割を超えている。

旅行者動向2011(財)日本交通公社

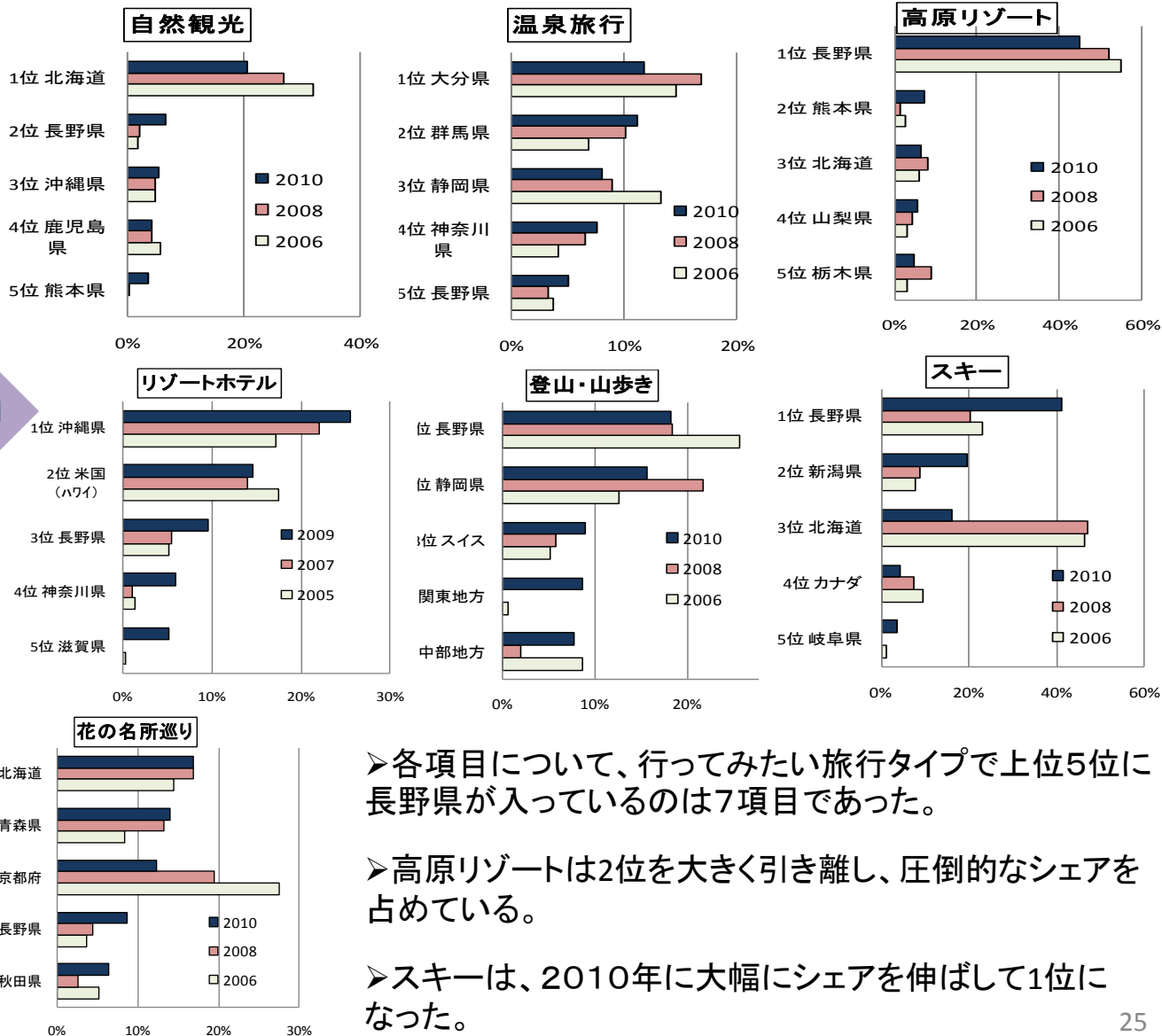
■行ってみたい旅行タイプ(複数回答)



長野県が上位の項目

■旅行タイプ別の行ってみたい旅行先で長野県が上位の項目

※国内・海外問わず自由回答



▶各項目について、行ってみたい旅行タイプで上位5位に長野県が入っているのは7項目であった。

▶高原リゾートは2位を大きく引き離し、圧倒的なシェアを占めている。

▶スキーは、2010年に大幅にシェアを伸ばして1位になった。

旅行者動向2011 ((財)日本交通公社)

■年代別の行ってみたい旅行タイプ

※長野県が上位の旅行タイプは色つきで表示

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
20代男性	自然観光	グルメ	温泉旅行	世界遺産巡り	歴史・文化観光	テーマパーク	都市観光	スキー	町並み散策	海浜リゾート
20代女性	グルメ	テーマパーク	温泉旅行	自然観光	世界遺産巡り	歴史・文化観光	海浜リゾート	ショッピング	おしゃべり旅行	動物園・水族館
30代男性	温泉旅行	自然観光	グルメ	テーマパーク	歴史・文化観光	海浜リゾート	世界遺産巡り	都市観光	おしゃべり旅行	動物園・水族館
30代女性	温泉旅行	自然観光	グルメ	テーマパーク	世界遺産巡り	歴史・文化観光	海浜リゾート	ショッピング	都市観光	パワースポット
40代男性	温泉旅行	グルメ	自然観光	テーマパーク	世界遺産巡り	リゾートホテル	海浜リゾート	歴史・文化観光	動物園・水族館	都市観光
40代女性	グルメ	温泉旅行	テーマパーク	自然観光	歴史・文化観光	ショッピング	おしゃべり旅行	海浜リゾート	都市観光	世界遺産巡り
50代男性	温泉旅行	自然観光	世界遺産巡り	テーマパーク	グルメ	歴史・文化観光	高原リゾート	海浜リゾート	スキー	登山・山歩き
50代女性	温泉旅行	自然観光	歴史・文化観光	グルメ	世界遺産巡り	町並み散策	ショッピング	テーマパーク	都市観光	海浜リゾート
60代男性	温泉旅行	自然観光	世界遺産巡り	グルメ	歴史・文化観光	高原リゾート	おしゃべり旅行	和風旅館	海浜リゾート	町並み散策
60代女性	自然観光	温泉旅行	世界遺産巡り	グルメ	歴史・文化観光	テーマパーク	おしゃべり旅行	海浜リゾート	町並み散策	都市観光
70代男性	温泉旅行	自然観光	世界遺産巡り	歴史・文化観光	グルメ	高原リゾート	都市観光	和風旅館	町並み散策	海浜リゾート
70代女性	自然観光	温泉旅行	歴史・文化観光	グルメ	町並み散策	世界遺産巡り	和風旅館	海浜リゾート	自然現象鑑賞	高原リゾート

長野県が上位の旅行タイプが多い年代

■行ってみたい旅行先総合ランキング(国内)

※2010年順位

順位	地域名	構成比(%)
1位	北海道	20.49
2位	沖縄県	15.15
3位	東京都	6.05
4位	鹿児島県	5.40
5位	京都府	5.21
6位	九州地方	2.68
7位	千葉県	2.38
8位	長野県	2.20
9位	四国地方	2.13
10位	東北地方	2.00

➤全ての年代で「自然観光」「温泉旅行」が10位以内に入っており、30代と50代以上では1位、2位を占めている。

➤50代以上の年代で、長野県が上位の旅行タイプが多くなっている。

➤特に50代男性では、「温泉旅行」「自然観光」に加え、「高原リゾート」「スキー」「登山・山歩き」がランクインしており、山岳観光地への来訪意向がみられる。

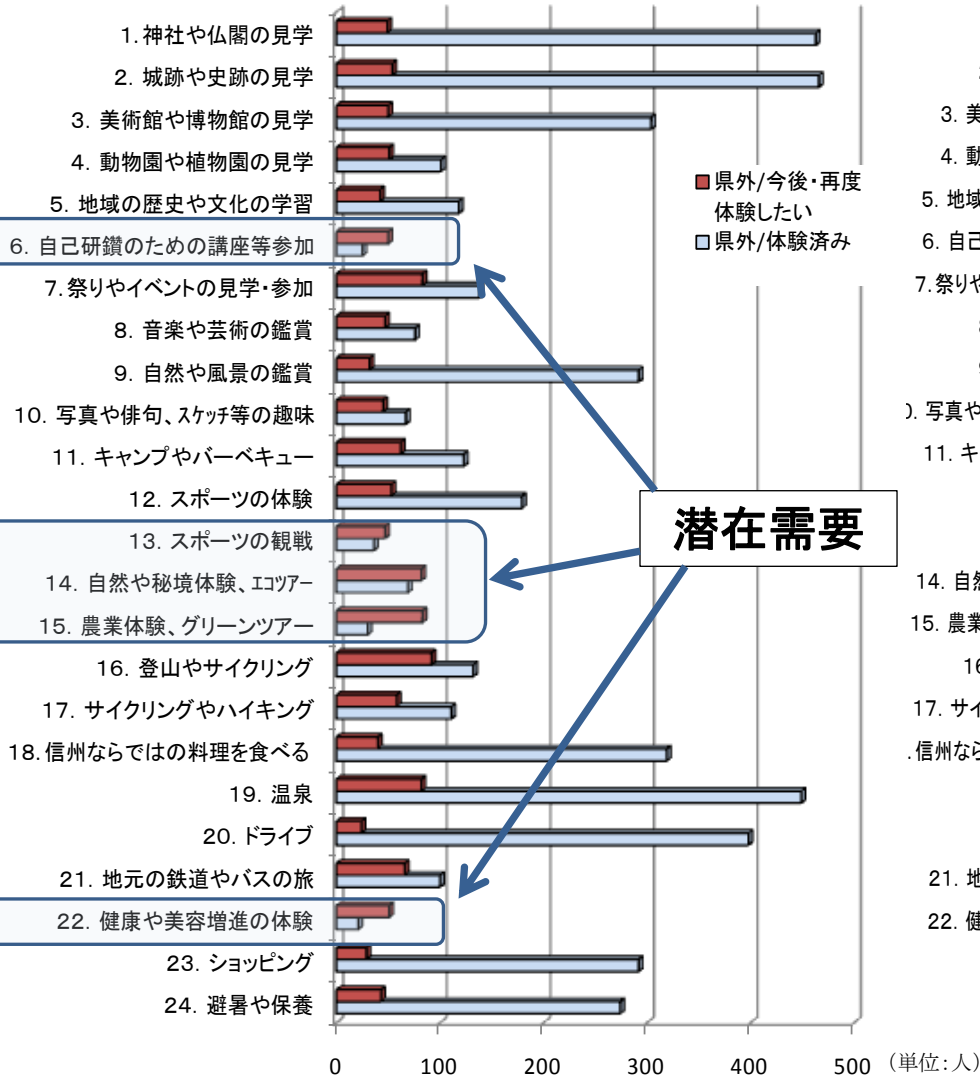
➤20代男性に「スキー」が入っている。

➤旅行先総合ランキングでは、長野県は8位となっている。

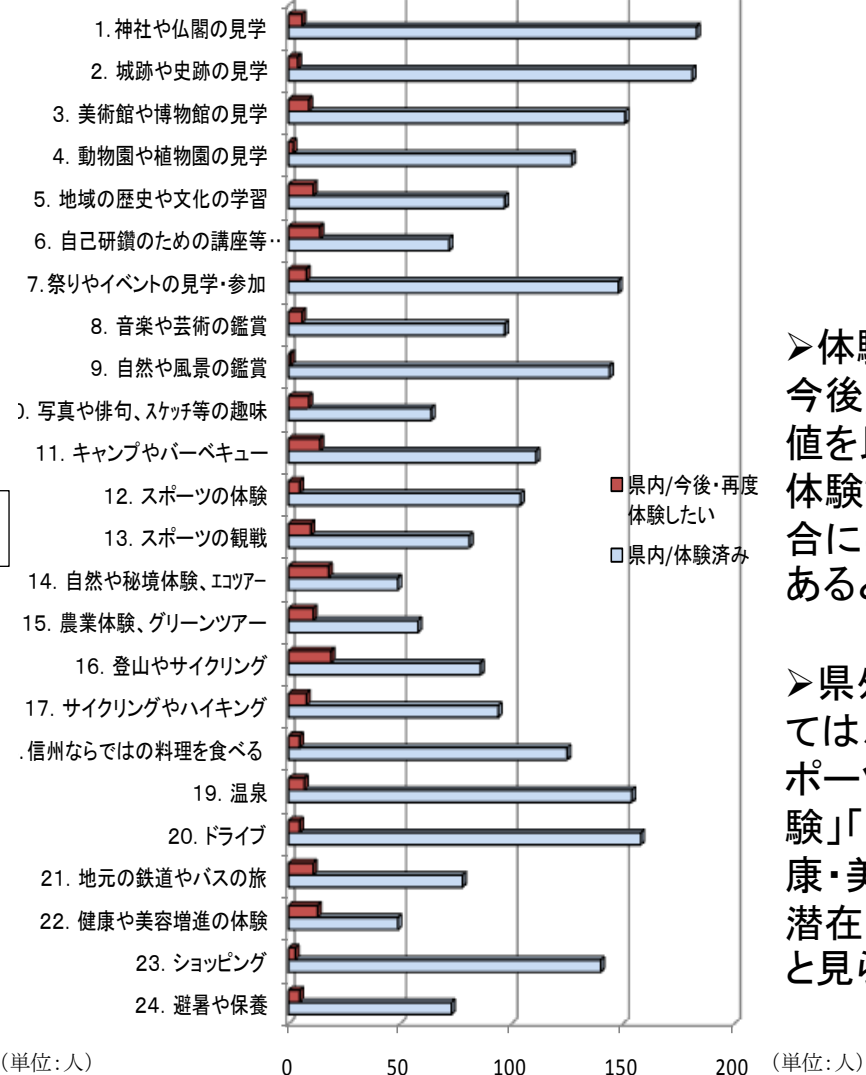
観光地点パラメータ調査(長野県)

※平成23年7-9月調査、n=1175

■ 県外旅行者の潜在需要



■ 県内旅行者の潜在需要



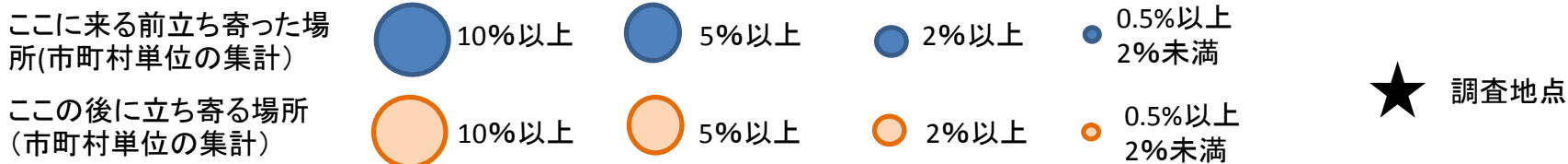
➤ 体験済みの数値と今後の体験意向の数値を比較し、今後の体験意向が上回る場合には、潜在需要があるとされる。

➤ 県外旅行者については、「自己研鑽」「スポーツ観戦」「自然体験」「農業体験」「健康・美容」について、潜在的な需要があると見られる。

観光地点パラメータ調査(長野県)※平成23年調査

※各観光地点に来る前に立ち寄った場所(市町村)及び調査地点の後に立ち寄る場所について、回答のあった観光地ごとにサンプル数を集計し、全サンプル数に対する割合を算出。割合の区別に地図上にマークを記載

■凡例



■軽井沢ショッピングプラザ(軽井沢町)

主な立ち寄り地点

ここへ来る前	立ち寄り地点	割合
ここへ来る前	軽井沢観光会館(軽井沢町)	7.3%
ここへ来る前	ハルニレテラス(軽井沢町)	3.4%
ここへ来る前	白糸の滝(軽井沢町)	2.9%
この後行く	立ち寄り地点	割合
この後行く	軽井沢観光会館(軽井沢町)	5.4%
この後行く	白糸の滝(軽井沢町)	1.0%
この後行く	ハルニレテラス(軽井沢町)	0.6%

■懐古園(小諸市)

主な立ち寄り地点

ここへ来る前	立ち寄り地点	割合
ここへ来る前	プリンスショッピングプラザ(軽井沢町)	9.5%
ここへ来る前	マンスワイン小諸ワイナリー(小諸市)	5.0%
ここへ来る前	善光寺(長野市)	5.0%
この後行く	立ち寄り地点	割合
この後行く	湯田中渋温泉郷(山ノ内町)	13.2%
この後行く	北斎館(小布施町)	8.5%
この後行く	碌山美術館(安曇野市)	8.3%

■上田城跡(上田市)

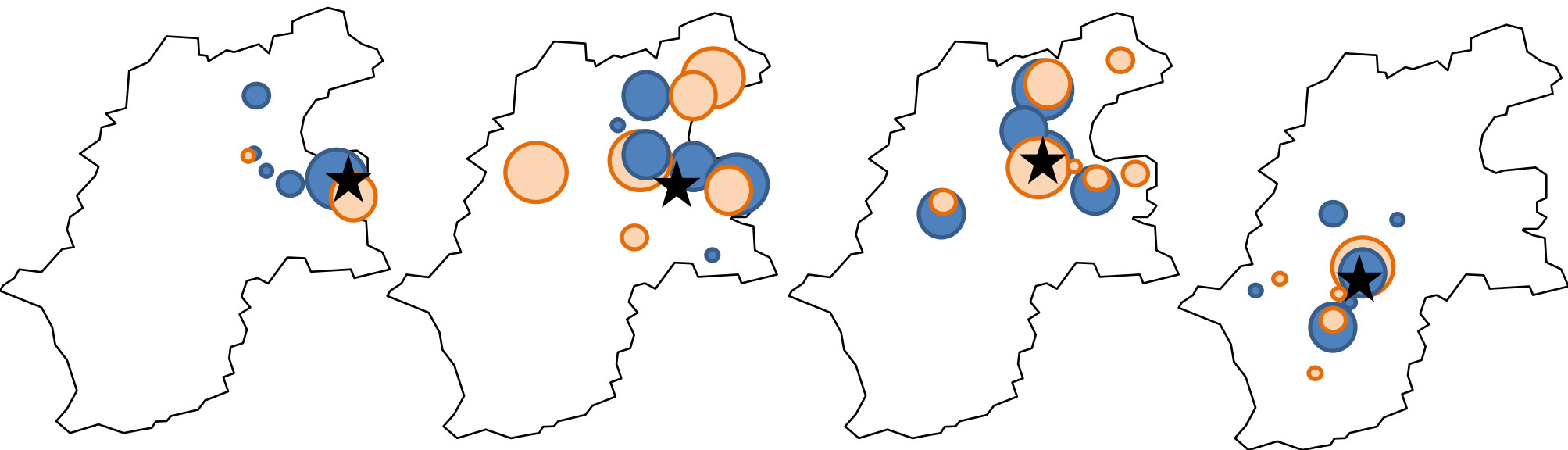
主な立ち寄り地点

ここへ来る前	立ち寄り地点	割合
ここへ来る前	善光寺(長野市)	11.1%
ここへ来る前	別所温泉(上田市)	8.7%
ここへ来る前	懐古園(小諸市)	7.3%
この後行く	立ち寄り地点	割合
この後行く	別所温泉(上田市)	10.2%
この後行く	善光寺(長野市)	6.7%
この後行く	プリンスショッピングプラザ(軽井沢町)	4.2%

■羽広温泉(伊那市)

主な立ち寄り地点

ここへ来る前	立ち寄り地点	割合
ここへ来る前	光前寺(駒ヶ根市)	5.9%
ここへ来る前	奈良井宿(塩尻市)	4.5%
ここへ来る前	かんてんばば(伊那市)	3.1%
この後行く	立ち寄り地点	割合
この後行く	かんてんばば(伊那市)	14.1%
この後行く	光前寺(駒ヶ根市)	2.0%
この後行く	奈良井宿(塩尻市)	1.0%



■諏訪大社上社(諏訪市)

主な立ち寄り地点

ここへ 来る前	上諏訪温泉(諏訪市)	11.2%
	霧ヶ峰自然保護センター(諏訪市)	7.0%
	諏訪大社下社(下諏訪町)	6.0%
この後 行く	上諏訪温泉(諏訪市)	9.7%
	松本城(松本市)	8.8%
	善光寺(長野市)	6.6%

■道の駅木曾ならかわ(塩尻市)

主な立ち寄り地点

ここへ 来る前	奈良井宿(塩尻市)	22.2%
	松本城(松本市)	7.6%
	碓山美術館(安曇野市)	4.9%
この後 行く	奈良井宿(塩尻市)	24.5%
	開田高原マイアスキー場(木曾町)	2.7%
	松本城(松本市)	2.3%

■松本城(松本市)

主な立ち寄り地点

ここへ 来る前	碓山美術館(安曇野市)	13.1%
	善光寺(長野市)	8.2%
	奈良井宿(塩尻市)	4.1%
この後 行く	善光寺(長野市)	11.6%
	碓山美術館(安曇野市)	11.0%
	旧開智学校(松本市)	3.8%

■堀金物産店道の駅(安曇野市)

主な立ち寄り地点

ここへ 来る前	碓山美術館(安曇野市)	11.2%
	国営アルプスあづみの公園堀金穂高(安曇野市)	6.5%
	室山(安曇野市)	2.9%
この後 行く	松本城(松本市)	6.1%
	碓山美術館(安曇野市)	5.8%
	国営アルプスあづみの公園堀金穂高(安曇野市)	3.4%

■道の駅小谷(小谷村)

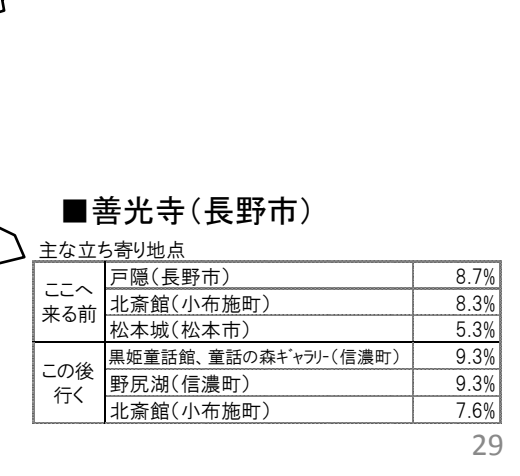
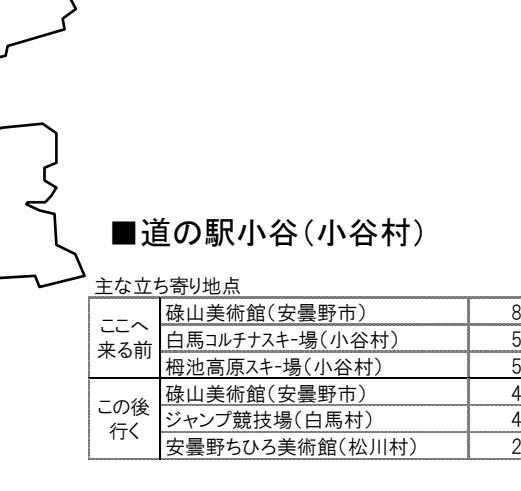
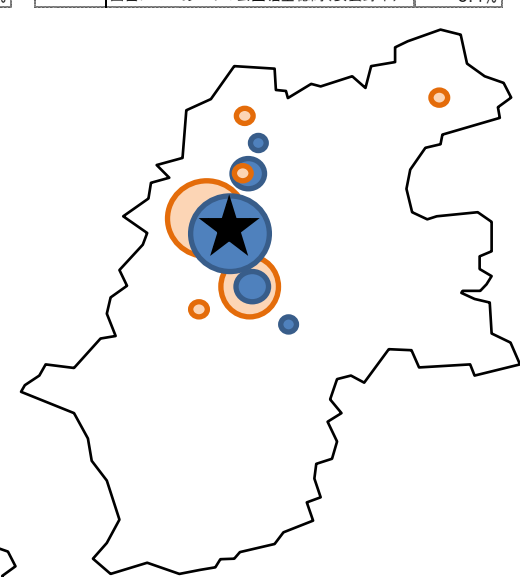
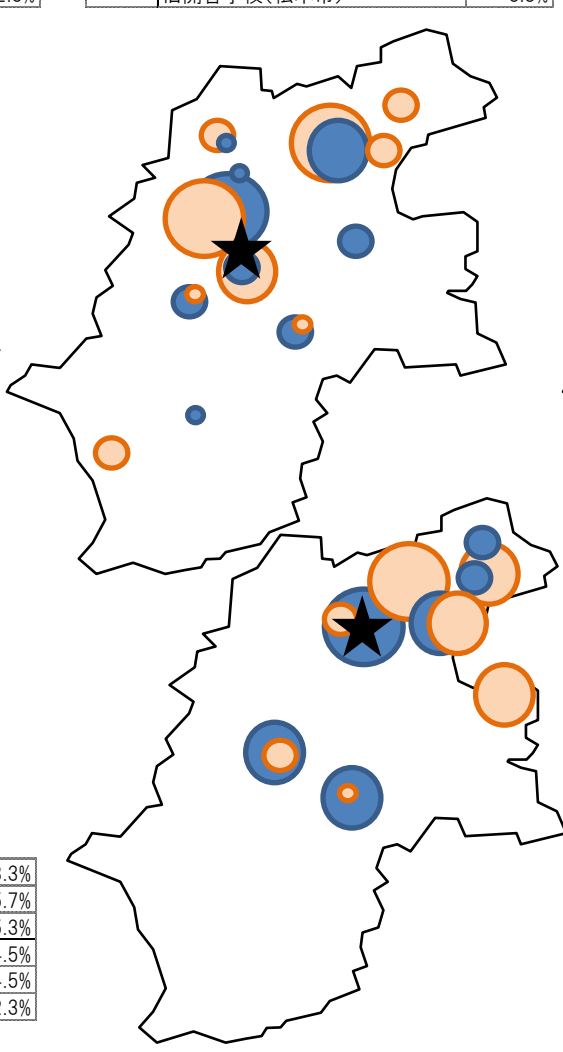
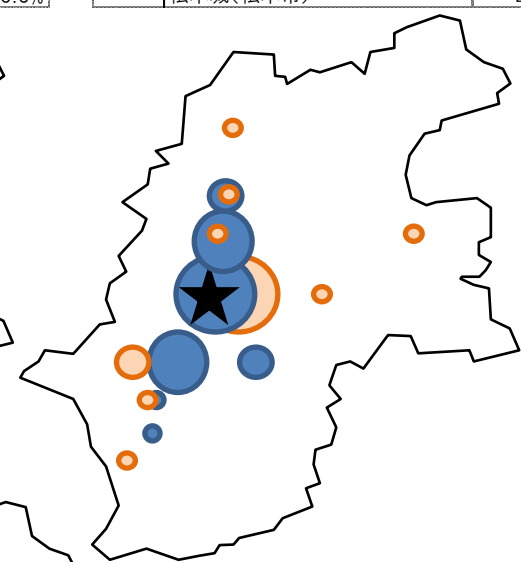
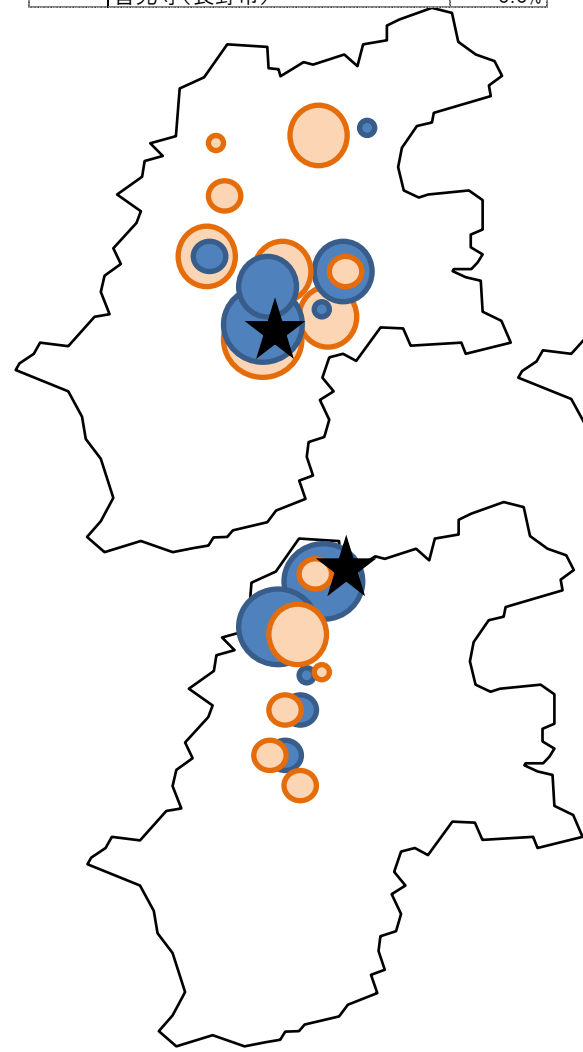
主な立ち寄り地点

ここへ 来る前	碓山美術館(安曇野市)	8.3%
	白馬コルチナスキー場(小谷村)	5.7%
	樽池高原スキー場(小谷村)	5.3%
この後 行く	碓山美術館(安曇野市)	4.5%
	ジャンプ競技場(白馬村)	4.5%
	安曇野ちひろ美術館(松川村)	2.3%

■善光寺(長野市)

主な立ち寄り地点

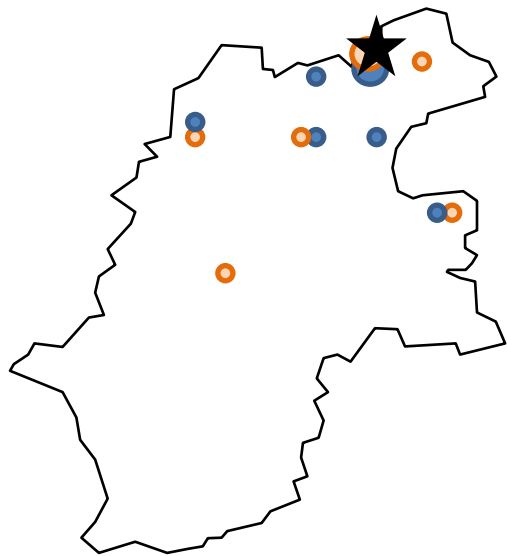
ここへ 来る前	戸隠(長野市)	8.7%
	北斎館(小布施町)	8.3%
	松本城(松本市)	5.3%
この後 行く	黒姫童話館、童話の森ギャラリー(信濃町)	9.3%
	野尻湖(信濃町)	9.3%
	北斎館(小布施町)	7.6%



■斑尾高原(飯山市)

主な立ち寄り地点

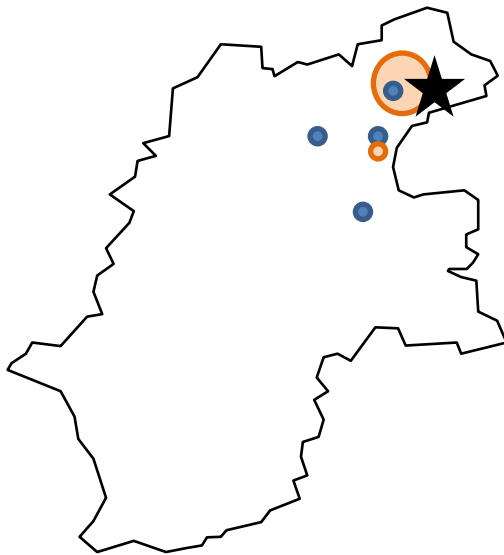
ここへ 来る前	高橋まゆみ人形館(飯山市)	2.6%
	飯山駅観光案内所(飯山市)	1.4%
	ジャンプ競技場(白馬村)	1.2%
この後 行く	野尻湖(信濃町)	1.5%
	飯山駅観光案内所(飯山市)	1.4%
	善光寺(長野市)	1.0%



■志賀高原(山ノ内町)

主な立ち寄り地点

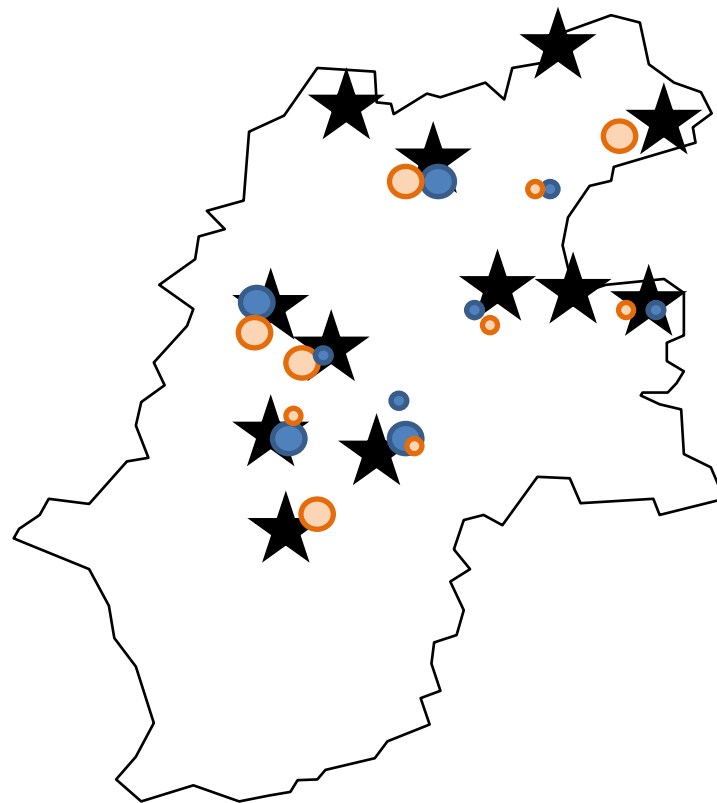
ここへ 来る前	別所温泉(上田市)	0.3%
	善光寺(長野市)	0.3%
	北斎館(小布施町)	0.3%
この後 行く	地獄谷野猿公苑(山ノ内町)	2.8%
	北斎館(小布施町)	1.3%
	道の駅北信州やまのうち(山ノ内町)	1.1%



■全県

主な立ち寄り地点

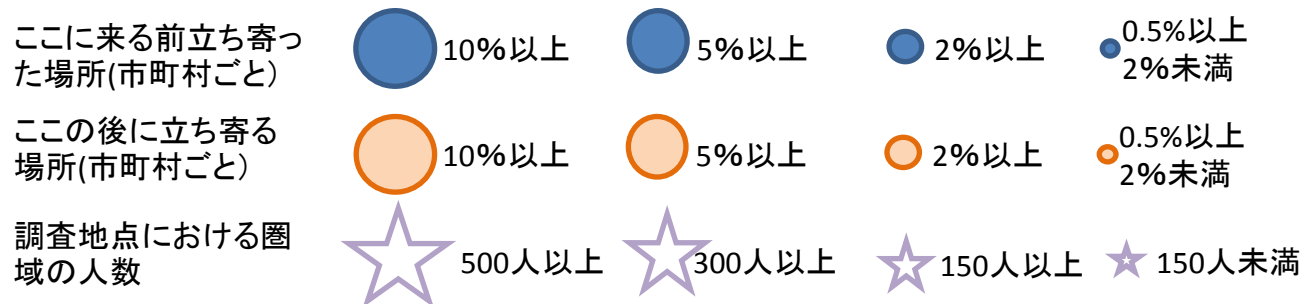
ここへ 来る前	碓山美術館(安曇野市)	7.3%
	善光寺(長野市)	3.4%
	上諏訪温泉(諏訪市)	2.9%
この後 行く	碓山美術館(安曇野市)	5.4%
	善光寺(長野市)	1.0%
	松本城(松本市)	0.6%



➤観光地点別に見ると、軽井沢プリンスショッピングプラザ、斑尾高原は立ち寄り地点が少なく、他の観光地を周遊する観光客が少ないと見られる。

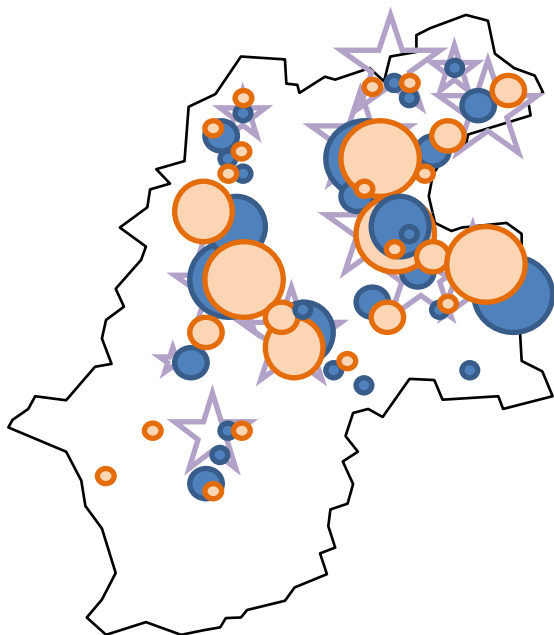
➤一方、上田城跡や木曾ならかわ、善光寺は広域的に周遊していることがうかがえる。

➤全県で見ると、立ち寄り地点として多くあげられているのは、松本城、善光寺、諏訪大社下社などとなっている。

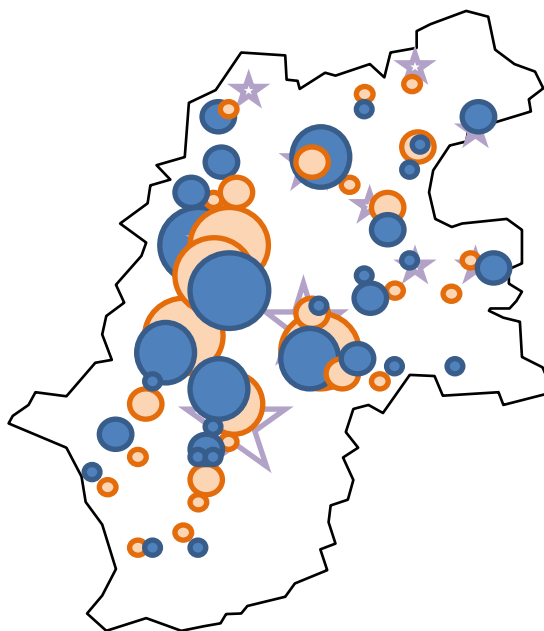


※サンプルベース

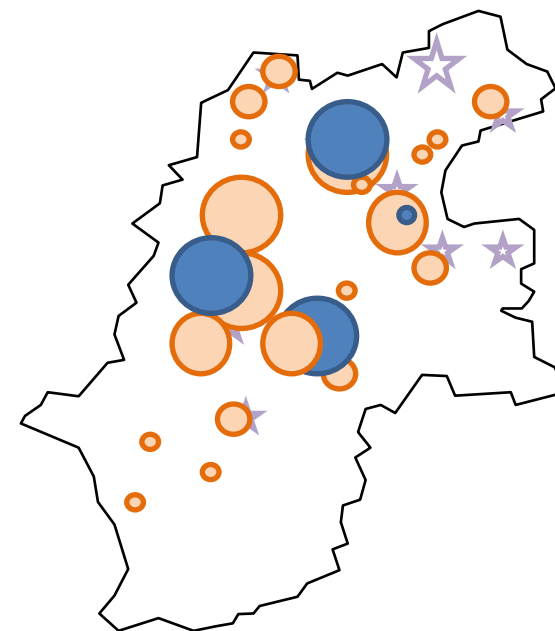
■首都圏からの旅行者立ち寄り地点



■中京圏からの旅行者立ち寄り地点



■関西圏からの旅行者立ち寄り地点



- 首都圏、中京圏、関西圏、それぞれ周遊エリアに違いが見られる。
- 首都圏は、新幹線及び上信越道沿線に集中し、中京圏は中央本線及び中央道・長野道沿線に集中、関西圏は中央本線及び中央道・長野道沿線に集中が見られる。
- 善光寺はどの圏域でも立ち寄り地点としての割合が高い。

地域ブランド戦略サーベイ(株)日経リサーチ

※調査方法: インターネット調査 回答者: 年齢16歳～69歳
 有効回答者数: 18,574人 調査時期: 2012年11月～12月
 評価の算出方法: 独自性、愛着度、購入意向、訪問意向、
 居住意向の5つの評価項目から総合得点を算出

■地域ブランド力調査ランキング

順位	都道府県	スコア	2010順位	2008順位
1	北海道	1016	1	1
2	京都府	976	2	2
3	沖縄県	922	3	3
4	東京都	857	4	4
5	大阪府	850	6	5
6	神奈川県	800	5	7
7	鹿児島県	792	10	8
8	福岡県	787	7	9
9	兵庫県	770	8	6
10	奈良県	751	12	11
11	長崎県	732	9	14
11	広島県	720	11	16
13	長野県	683	17	10
14	香川県	682	24	29
15	愛知県	674	18	12

地域ブランド調査2013(株)ブランド総合研究所

※調査方法: インターネット調査 回答者: 年齢20歳代～60歳代
 有効回答者数: 29,651人 調査時期: 2013年7月3日～29日
 調査内容: 認知度、魅力度、情報接触度、情報接触経路、
 観光意欲、居住意欲、産品購入意欲、イメージ、
 地域資源評価など72の項目
 魅力度については5段階評価で得点化

■都道府県の魅力度ランキング

順位	都道府県	点数	2012順位	2011順位
1	北海道	65.3	1	1
2	京都府	49.1	2	2
3	沖縄県	44.3	3	3
4	東京都	40.6	4	4
5	神奈川県	29.1	6	6
6	奈良県	27.3	5	5
7	福岡県	27.1	10	10
8	大阪府	26.2	8	7
9	長野県	23.9	7	8
10	兵庫県	22.6	11	9
11	長崎県	22.0	9	11
12	静岡県	21.3	12	12
13	宮城県	21.1	21	15
14	石川県	20.4	13	13
14	鹿児島県	20.4	18	17

▶両調査の上位4位までは、同じ顔ぶれとなっている。

▶長野県の順位は、地域ブランド戦略サーベイでは前回の17位から13位へ上昇しているが、地域ブランド調査では、前回の7位から2013年は9位と順位を下げた。

掘り起こそう、足元の価値。
伝えよう、信州から世界へ。